

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン メジロガクエン 学校法人 目白学園								
フリガナ大学の名称	メジロガク 目白大学 (Mejiro University)								
大学本部の位置	東京都新宿区中落合4丁目31番1号								
大学の目的	教育基本法及び建学の精神「主・師・親」（「主」は国家、社会への献身的態度、「師」は真理探究の熱意、「親」は人間尊重の精神）に基づき、創造的な知性と豊かな人間性及び応用的諸能力をそなえ、わが国の発展、国際社会の平和と福祉に貢献する主体性のある人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	心の成り立ちや働きなどに関する心理学の諸分野を幅広く学び、科学的・実証的な方法論を修得するとともに、人間の心理と行動に関する多角的な視野からの知識と主体的な行動力をもつ人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	心理学部 [Faculty of Psychology] 心理カウンセリング学科 [Department of Psychological Counseling] 計	4年	125人	—年次人	500人	学士(心理学) [Bachelor of Arts in Psychology]	令和2年4月 第1年次	東京都新宿区中落合4丁目31番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		人間学部 心理カウンセリング学科 (廃止) (△120) (3年次編入学定員) (△10) ※令和2年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	心理学部心理カウンセリング学科	97科目	62科目	10科目	169科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	心理学部 心理カウンセリング学科	5人 (5)	6人 (6)	4人 (4)	4人 (4)	19人 (19)	2人 (2)	150人 (148)
		計	5人 (5)	6人 (6)	4人 (4)	4人 (4)	19人 (19)	2人 (2)	—人 (—)
	既設分	人間学部 人間福祉学科	7人 (7)	3人 (3)	6人 (6)	4人 (4)	20人 (20)	1人 (1)	165人 (165)
		子ども学科	5人 (5)	5人 (5)	5人 (5)	4人 (4)	19人 (19)	1人 (1)	165人 (165)
		児童教育学科	5人 (5)	4人 (4)	3人 (3)	1人 (1)	13人 (13)	1人 (1)	144人 (144)
		社会学部 社会情報学科	6人 (6)	2人 (2)	6人 (6)	0人 (0)	14人 (14)	3人 (3)	151人 (151)
		地域社会学科	7人 (7)	2人 (2)	3人 (3)	0人 (0)	12人 (12)	1人 (1)	148人 (148)
		メディア学部 メディア学科	7人 (7)	7人 (7)	3人 (3)	2人 (2)	19人 (19)	1人 (1)	142人 (142)
		経営学部 経営学科	11人 (11)	1人 (1)	2人 (2)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	150人 (150)
		外国語学部 英米語学科	7人 (7)	4人 (4)	8人 (8)	0人 (0)	19人 (19)	1人 (1)	149人 (149)
		中国語学科	3人 (3)	1人 (1)	2人 (2)	0人 (0)	6人 (6)	1人 (1)	132人 (132)
		韓国語学科	5人 (5)	1人 (1)	2人 (2)	0人 (0)	8人 (8)	1人 (1)	139人 (139)
	日本語・日本語教育学科	3人 (3)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	135人 (135)	
保健医療学部 理学療法学科	8人 (8)	3人 (3)	4人 (4)	2人 (2)	17人 (17)	0人 (0)	42人 (42)		
作業療法学科	6人 (6)	5人 (5)	3人 (3)	2人 (2)	16人 (16)	1人 (1)	44人 (44)		

要	言語聴覚学科		6 (6)	3 (3)	3 (3)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	32 (32)
	看護学部 看護学科		12 (12)	6 (6)	9 (9)	10 (10)	37 (37)	1 (1)	66 (66)
	計		98 (98)	49 (49)	61 (61)	29 (29)	237 (237)	13 (13)	— (—)
	合 計		103 (103)	55 (55)	65 (65)	33 (33)	256 (256)	15 (15)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		人		人		人		
			82 (82)		65 (65)		147 (147)		
	技 術 職 員		-		-		-		
			(-)		(-)		(-)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		-		1 (1)		
そ の 他 の 職 員		-		-		-			
		(-)		(-)		(-)			
計		83 (83)		65 (65)		148 (148)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	49,716.30㎡	23,095.99㎡		14,083.86㎡		86,896.15㎡		
	運 動 場 用 地	0.00㎡	13,351.00㎡		13,800.00㎡		27,151.00㎡		
	小 計	49,716.30㎡	36,446.99㎡		27,883.86㎡		114,047.15㎡		
	そ の 他	1,877.06㎡	0.00㎡		0.00㎡		1,877.06㎡		
	合 計	51,593.36㎡	36,446.99㎡		27,883.86㎡		115,924.21㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		24,372.88㎡ (24,372.88㎡)	42,666.94㎡ (42,666.94㎡)		16,452.63㎡ (16,452.63㎡)		83,492.45㎡ (83,492.45㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	95室	43室	61室		15室		2室		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数			
		心理学部心理カウンセリング学科				17 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	心理学部心理カウンセリング学科	403,000 [35,600] (381,500 [35,000])	1,450 [430] (1,400 [400])	230 [210] (200 [190])	13,000 (12,800)	0 (0)	0 (0)		
	計	403,000 [35,600] (381,500 [35,000])	1,450 [430] (1,400 [400])	230 [210] (200 [190])	13,000 (12,800)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
		4393.13㎡		708		300,000			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		4636.7㎡		テニスコート		—			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等	—	300千円	300千円	300千円	300千円	—千円	—千円
		共同研究費等	—	1,300千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	—千円	—千円
		図書購入費	2,871千円	2,200千円	2,200千円	2,200千円	2,200千円	—千円	—千円
		設備購入費	27,943千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,370千円	1,096千円	1,096千円	1,096千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私学事業団経常費補助金、資産運用収入、及び寄付金収入						

大学等の名称	目白大学大学院							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
国際交流研究科 国際交流専攻	2	20	—	40	修士(国際学)	0.50	平成11年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
心理学研究科 現代心理学専攻	2	20	—	40	修士(心理学)	0.32	平成20年度	同上
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士(心理学)	0.28	平成14年度	同上
心理学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.22	平成16年度	同上
経営学研究科 経営学専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.22	平成16年度	同上
経営学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経営学)	0.11	平成21年度	同上
生涯福祉研究科 生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.05	平成19年度	同上
言語文化研究科 英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士(英語学)	0.00	平成20年度	同上
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士(日本語学)	0.60	平成20年度	同上
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.30	平成20年度	同上
看護学研究科 看護学専攻	2	15	—	30	修士(看護学)	0.46	平成21年度	埼玉県和光市諏訪2丁目12番地
リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻	2	15	—	30	修士(リハビリテーション学)	0.19	平成24年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
大学等の名称	目白大学							
大学等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
人間学部 心理カウンセリング学科	4	120	3年次 10	500	学士(心理学)	1.11	平成12年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
人間福祉学科	4	100	3年次 10	440	学士(人間福祉学)	0.89	平成16年度	同上
子ども学科	4	140	3年次 10	580	学士(子ども学)	0.99	平成19年度	同上
児童教育学科	4	50	—	200	学士(児童教育学)	1.17	平成21年度	同上
社会学部 社会情報学科	4	120	3年次 5	490	学士(社会情報学)	1.09	平成12年度	同上
メディア表現学科	4	—	—	—	学士(社会科学)	—	平成12年度	同上
地域社会学科	4	80	3年次 5	330	学士(地域社会学)	1.09	平成18年度	同上
メディア学部 メディア学科	4	140	—	280	学士(メディア学)	1.03	平成30年度	同上
経営学部 経営学科	4	130	3年次 5	520	学士(経営学)	1.01	平成14年度	同上
外国語学部 英米語学科	4	80	3年次 5	330	学士(英米語)	1.16	平成17年度	同上
中国語学科	4	40	—	160	学士(中国語)	0.91	平成20年度	同上
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.13	平成20年度	同上
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	1.05	平成20年度	同上

※平成29年度入学定員減(△20人)

※平成30年度より学生募集停止

※平成30年度開設

※平成29年度入学定員増(10人)

	保健医療学部 理学療法学科	4	85	—	335	学士（理学療法学）	0.99 1.10	平成17年度	埼玉県さいたま市 岩槻区浮谷320番地 同上 同上	※平成29年度入学 定員増（5人）
	作業療法学科	4	60	—	240	学士（作業療法学）	0.94	平成17年度		
	言語聴覚学科	4	40	—	160	学士（言語聴覚学）	0.83	平成18年度		
	看護学部 看護学科	4	105	—	415	学士（看護学）	1.09 1.09	平成18年度	同上	※平成29年度入学 定員増（5人）
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	目白大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	生活科学科	2	—	—	—	短期大学士 （生活科学）	—	昭和39年度	東京都新宿区中落 合4丁目31番1号	※平成31年度より 学生募集停止
	製菓学科	2	55	—	125	短期大学士 （生活科学）	1.00	平成19年度	同上	※平成30年度入学 定員減（△10人） ※平成31年度入学 定員減（△15人）
ビジネス社会学科	2	75	—	150	短期大学士 （社会経済）	1.07	平成22年度	同上	※平成30年度入学 定員増（15人）	
歯科衛生学科	3	60	—	60	短期大学士 （歯科衛生 学）	0.51	平成31年度	同上	※平成31年度開設	
附属施設の概要	該当なし									

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(心理学部心理カウンセリング学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
セ ミ ナ ー 初 年 次	フレッシュマンセミナー	1前	1			○				4	2			
	ベーシックセミナー	1後	1			○				4	2			
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—				4	2			
分 野 横 断 科 目	大学生活と学問	1前		2		○			1					兼13 オムニバス
	知の探究法	1後		2		○								兼5 オムニバス
	「目白大学」を知る	1前		2		○								兼11 オムニバス、共同(一部)
	科学的なものの見方・考え方	1後		2		○								兼4 オムニバス
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—			1					兼29
学 際 科 目	雑穀文化を学ぶ	2後		2		○								兼2 オムニバス、共同(一部)
	感性を磨く芸術論	2後		2		○								兼3 オムニバス
	知の対象としての恋愛	2後		2		○			1	1				兼4 オムニバス
	人間と遊び	2後		2		○								兼6 オムニバス、共同(一部)
	社会生活のデザイン	2後		2		○								兼3 オムニバス
	子供とメディア	2後		2		○								兼3 オムニバス
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2		○								兼5 オムニバス
	お金とつきあう	2後		2		○								兼3 オムニバス
	社会の中のことば	2後		2		○								兼2 オムニバス
	日本語再発見	2後		2		○								兼6 オムニバス
	コトバの実験室	2後		2		○								兼2 オムニバス
小計 (11科目)	—	0	22	0	—			1	1				兼37	
異 分 野 入 門 科 目	人文系学生のための情報ネットワーク・データ活用入門	2前		2		○								兼4 オムニバス
	マスメディア学入門	2前		2		○								兼8 オムニバス
	江戸から東京へ	2前		2		○								兼3 オムニバス
	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	2前		2		○								兼4 オムニバス
	ことばの「しくみ」と「はたらき」	2前		2		○								兼3 オムニバス
	東アジアの言語と文化	2前		2		○								兼2 オムニバス
	古典に学ぶ	2前		2		○								兼1
小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼25	
科 目 グ ロ ー バ ル 課 題 探 求	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2		○				1				兼4 オムニバス
	サステイナブル社会を考える	3前		2		○								兼4 オムニバス
	食と農から考える地域と世界	3後		2		○								兼2 オムニバス
	世界の今を学ぼう	3後		2		○								兼1
小計 (4科目)	—	0	8	0	—			0	1	0	0	0	兼11	
総 合 科 目	日本国憲法	1前・後		2		○								兼1
	遺跡を科学する (考古学)	1後		2		○								兼1
	芸術と人間 (芸術論)	1後		2		○								兼1
	政治のしくみ (政治学)	1前		2		○								兼1
	アジアの歴史と文化 (東洋史)	1後		2		○								兼1
	西洋の歴史と文化 (西洋史)	1後		2		○								兼1
	日本の歴史 (日本史)	1前・後		2		○								兼2

共通科目	資格関連科目	環境物理学	1後		2		○												兼1	
		自然地理学概説	1後		2		○													兼1
		やさしい観光開発（観光開発論）	1後		2		○													兼1
		社会学	1前		2		○													兼1
		法学	1前・後		2		○													兼1
		社会学概論	1前		2		○													兼1
		漢文学の世界（漢文学論）	1前		2		○													兼1
		現代文学	1前		2		○													兼1
		倫理	1前		2		○													兼1
		小計（16科目）	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼17
	国語	日本語読解演習Ⅰ	1前	1				○												兼4
		日本語読解演習Ⅱ	1後	1				○												兼4
		日本語表現演習Ⅰ	2前	1				○												兼4
		日本語表現演習Ⅱ	2後	1				○												兼4
		専門レポート基礎演習	2後		1			○												兼2
	小計（5科目）	—	4	1	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼10	
外国語	英語基礎(Fundamentals of English)Ⅰ	1前	1				○												兼4	
	英語基礎(Fundamentals of English)Ⅱ	1後	1				○												兼4	
	総合英語(Integrated English)Ⅰ	1前	1				○												兼4	
	総合英語(Integrated English)Ⅱ	2前	1				○												兼4	
	専門基礎英語(Basic English for Special Fields)	2後	1				○												兼3	
	English Test Strategies	1前・後		1			○												兼5	
	English Using CALL	1前・後		1			○												兼2	
	Advanced Reading	2前		1			○												兼1	
	Business English	2前・後		1			○												兼1	
	Communication in the Media	2前・後		1			○												兼1	
	Communicative Listening and Writing	2前・後		1			○												兼1	
	Dynamics of English Sound	2前・後		1			○												兼1	
	Film English	2前・後		1			○												兼2	
	Practical English Grammar	2前・後		1			○												兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼4	
	中国語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼2	
	中国語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼1	
	韓国語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼2	
	韓国語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼2	
	韓国語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼2	
	インドネシア語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼1	
	インドネシア語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼1	
	インドネシア語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼1	
	フランス語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼3	
	フランス語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼2	
	フランス語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼2	
ドイツ語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼2		
ドイツ語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼2		
ドイツ語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼2		
スペイン語基礎Ⅰ	1前・後		1			○												兼1		
スペイン語基礎Ⅱ	1前・後		1			○												兼1		
スペイン語基礎Ⅲ	2前・後		1			○												兼1		

	応用中国語演習	2後	1			○													兼1
	応用韓国語演習	2後	1			○													兼1
	応用インドネシア語演習	2後	1			○													兼1
	応用フランス語演習	2後	1			○													兼1
	応用ドイツ語演習	2後	1			○													兼1
	応用スペイン語演習	2後	1			○													兼1
	小計 (38科目)	—	5	33	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼27
情報活用演習	情報活用演習Ⅰ	1前	2			○													兼4
	情報活用演習Ⅱ	2後	2			○													兼2
	情報活用基礎演習A	1前・後		2		○													兼2
	情報活用基礎演習B	1後		2		○													兼1
	情報活用応用演習	1前・後		2		○													兼2
	情報活用特別演習	2前		2		○													兼1
	数と情報	1前・後		2		○													兼2
小計 (7科目)	—	4	10	0	—					0	0	0	0	0	0	0	0	兼7	
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1			○													兼3
	生涯スポーツ2	2前・後		1		○													兼6
	生涯スポーツ3	3前・後		1		○													兼2
	健康科学	1前・後	1			○													兼2
	健康科学演習 (心とからだ)	2後		1		○													兼2
小計 (5科目)	—	2	3	0	—					0	0	0	0	0	0	0	0	兼7	
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1			○				1	2	2							兼1
	専門とキャリアB	2後	1			○				1	2	2							兼1
	仕事と社会	3前		1		○													兼1
	キャリア研修Ⅰ	1前・後		2					○										兼1
	キャリア研修Ⅱ	2前・後		2					○										兼1
小計 (5科目)	—	2	5	0	—					1	2	2	0	0	0	0	0	兼2	
心理学導入科目	心理学と社会A (家族とこころ)	1後		2		○				1									
	心理学と社会B (多様性・文化とこころ)	1前		2		○				1									
	心理学と社会C (消費者とこころ)	1後		2		○													兼1
	心理学と社会D (人間関係とこころ)	1後		2		○													兼1
	心理学と社会E (子ども相談入門)	1後		2		○					1								
	心理学と社会F (こころの予防教育)	1前		2		○							1						
小計 (6科目)	—	0	12	0	—					2	1	1						兼2	
心理学基礎科目	心理学概論	1前	2			○													兼1
	臨床心理学概論	1前	2			○						1							
	心理学統計法	1後	2			○					2								兼2
	心理学研究法	2前	2			○							1						
	心理学実験	2後	4					○			1		2						兼3
小計 (5科目)	—	12	0	0	—						3	2	2					兼5	
基本科目	知覚・認知心理学	1後	2			○													兼1
	学習・言語心理学	1後	2			○													兼1
	感情・人格心理学	2前	2			○					1								
	神経・生理心理学	1前	2			○													兼1
	社会・集団・家族心理学	1後	2			○							1						
	発達心理学	1前	2			○				1									
	障害者・障害児心理学	2後		2		○					1								
小計 (7科目)	—	12	2	0	—					1	2	1						兼2	

理学発展科目	実践科目	健康・医療心理学	2前		2		○			1										
		福祉心理学	2後		2		○					1								
		教育・学校心理学	2前		2		○			1										
		司法・犯罪心理学	2前		2		○				1									
		産業・組織心理学	2後		2		○					1								
		小計(5科目)	—	0	10	0		—		2	1	2								
	関連科目	精神疾患とその治療	2後	2			○			1										
		人体の構造と機能及び疾病	3前		2		○			1										
		公認心理師の職責	3前		2		○					1								
		関係行政論	3後		2		○			1	1	3						オムニバス		
	小計(4科目)	—	2	6	0		—		1	1	3									
	専門教育科目	心理学専修科目	家族心理学特講A(子どもの心理療法)	2後		2		○				1								
			家族心理学特講B(芸術療法)	3後		2		○											兼1	
			対人関係心理学特講A(パーソナリティと心理学)	2前		2		○			1									
			対人関係心理学特講B(ストレスと行動変容)	3前		2		○				1								
			多様性心理学特講A(コミュニティ心理学)	2後		2		○												兼1
			多様性心理学特講B(異文化・多様性カウンセリング)	3前		2		○			1									
			福祉心理学特講A(成人と高齢者の心理学)	2前		2		○				1								
			福祉心理学特講B(児童養護)	3前		2		○					1							
			学校心理学特講A(ピア・サポートA)	3前		2		○			1	1		2						
学校心理学特講B(ピア・サポートB)			3後		2		○			1	1		2							
学校心理学特講C(学校臨床心理学)			2後		2		○				1									
医療健康心理学特講A(力動的心理療法)			2前		2		○												兼1	
医療健康心理学特講B(認知行動療法)			2後		2		○				1									
医療健康心理学特講C(スポーツ心理学)			3前		2		○												兼1	
医療健康心理学特講D(身体疾患と心理)			3後		2		○			1										
司法犯罪心理学特講A(被害者支援心理学)			2前		2		○						1							
司法犯罪心理学特講B(心理学と法)			2後		2		○				1									
司法犯罪心理学特講C(加害と被害の臨床心理学)			3後		2		○						1							
産業心理学特講A(キャリア心理学)			2前		2		○						1							
産業心理学特講B(産業カウンセリング)			3後		2		○												兼1	
小計(20科目)	—	0	40	0		—		4	6	2	2						兼4			
心理学演習	心理学体験実習A(ボランティア)	1前		1			○			1		1								
	心理学体験実習B(異文化体験)	2後		1			○		1			1								
	心理学体験実習C(メンタルサポートボランティア)	3前		1			○			1		1								
	心理学入門演習	1前	2			○					1	3						兼1		
	心理学基礎演習	2前	2			○				2		2						兼1		
	心理学調査法	3後		2			○			1										
小計(6科目)	—	4	5	0		—		1	4	1	4						兼1			
心理学的支援	心理的アセスメント	3後		2		○						1								
	心理学的支援法	3前		2		○				1										
	心理演習A	4前		2			○			1	1	1								
	心理演習B	4後		2			○			1	1	1								
	心理実習	4通		2			○		3	6	3						兼1			
小計(5科目)	—	0	10	0		—		3	6	3	1						兼1			
研 修 地	臨地研修(短期)	2・3前		2			○					2						共同		
	臨地研修(長期)	2・3通		4			○					2						共同		
	小計(2科目)	—	0	6	0		—					2								

セ ミ ナ ー ・ 卒 業 研 究	心理学専門セミナーA	3前	1				○		4	6	4			兼1
	心理学専門セミナーB	3後	1				○		4	6	4			兼1
	心理学特別セミナーA	4前	1				○		4	6	4			兼1
	心理学特別セミナーB	4後	1				○		4	6	4			兼1
	卒業研究	4通		4				○	4	6	4			兼1
小計 (5科目)		—	4	4	0	—			4	6	4			兼1
合計 (169 科目)		—	53	231	0	—			5	6	4	4		兼150
学位又は称号		学士 (心理学)		学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業要件：124単位 共通科目：28単位以上 専門教育科目：84単位以上(必修科目34単位、選択必修科目10単位、 選択科目40単位以上) (内訳) 心理学導入科目4単位選択必修 心理学基礎科目12単位必修 心理学発展科目14単位必修 心理学専修科目6単位選択必修 心理学演習実習科目4単位必修 セミナー・卒業研究4単位必修 自由選択科目：12単位							1 学年の学期区分			2期				
							1 学期の授業期間			15週				
							1 時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(心理学部心理カウンセリング学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	初年次セミナー	フレッシュマンセミナー 大学生生活を有意義に過ごすために、分野の枠を超えて初年次の学生が共通に身につけるべき、基本的な態度・資質・能力などを育むことを目的とする。特に以下の目標を達成するための科目内容とする。①主体的に学習し行動することができる、②自分の時間を正しく管理することができる、③規律正しい生活習慣と自学自習の習慣をしっかりと身につけている、④相手の立場を思いやる優しさの高い規範意識や倫理観を保持している、⑤好奇心や粘り強さなどの学びに対する基本的な態度とコミュニケーション力を身につけている。	
共通科目	初年次セミナー	ベーシックセミナー それぞれの専門教育を受けるための前提として必要とされる基礎的な知識や能力(基礎学力)の基盤となる態度を身につけさせることを目的とする。特に以下の2つの目標を達成するための科目内容とする。①各学科での専門科目の学習への動機付けとすべく、関連分野に関する自発的学習への態度を養う②アカデミックスキルの一つとしての情報リテラシーの基礎を身につけ、これを基に自分にとって必要な情報を収集・分析することや、新たに有意義な情報を表現・発信することができる。	
共通科目	総合科目	大学生活と学問 新宿キャンパスの学生を対象とし、人文社会科学分野の学問の体系について基本的な知識を与え、多様なものの見方ができるようにする。われわれはどのような学問分野をもっているのか、それぞれの学問はわれわれにとってどういう意味をもっているのか、大学にはどのような学問が生きているのか、大学生が学問をすることにどのような意味があるのか、これらについて講述するとともに、学問(ディシプリン)形成の力学と背景を知ることにより、われわれが如何なる「現実」を生きているかについて考える。各専門分野の教員が各回を担当し、質疑応答・討論を行う。 (オムニバス方式/全15回) (42 太原孝英/2回) 授業のねらい・内容・進め方について導入の講義を行う。また、総括として目白大学での学びや、「目白学」の創出について講義する。 (1 小池(渋谷)真規子/1回) 心理学を学ぶ意義について講義する。 (33 植村泰三/1回) 国際社会の諸問題を読み解くことについて講義する。 (53 高橋弥生/1回) 現代の子ども・子育て事情について講義する。 (34 田尻信壹(信一)/1回) 世界史教育を通じて伝えたいことについて講義する。 (37 大枝近子/1回) 社会情報学科での学びについて講義する。 (59 鈴木章生/1回) 「歩く、見る、聴く」地域社会学科の学びについて講義する。 (94 川口節子/1回) 芸術と人間 一人形浄瑠璃の表現から— について講義する。 (38 中村裕一郎/1回) 企業や会社経営等について、ベンチャー起業家を例に講義する。 (26 須加美明/1回) 社会福祉学とソーシャルワークについて講義する。 (41 鏡屋 一/1回) ことばと歴史からみる中国・台湾について講義する。 (66 金 河守/1回) 日本語と韓国語の相似点相違点について講義する。 (86 濱川祐紀代/1回) 外国人は漢字をどう学ぶのかについて講義する。	オムニバス方式

		(62 時本真吾／1回) 「<コミュニケーション能力>を脳から観る」というテーマで講義する。	
	知の探究法	<p>(概要) 大学での学びの姿勢として、それまでの受験勉強に代表されるような結果だけを覚える勉強から、自ら問題点を発見し、それを自ら解決していこうとする姿勢に転換することが必要である。そこで本科目は、大学での学修への導入的科目として、各教員の専門の学問領域において、日常的な疑問や問題意識をどのようなプロセスを経て解明しようとしているかを体験的に知ることによって、大学での学びのあり方を知り、今後の学修に役立てることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(70 今野裕之／3回) 第1回目から第3回目までは、オリエンテーションの後、まず心理学の分野において、学生が関心を持つと思われる血液型と性格に関する話題を取り上げ、一般に流布されている俗説と、研究者がこのテーマを取り扱っている学術研究が、どのように異なっているかを明らかにすることによって、科学的に研究することの重要性を認識できるようにする。</p> <p>(32 六波羅詩朗／3回) 現在、そして将来の日本は、どのような社会となるのか。子供の生まれる数が少なくなる一方で、高齢者の総人口に占める割合は、社会全体として「年寄り」が多数を占めることを意味する。しかし、人口推計のような単なる人口の変化で捉えるのではなく、社会のありようを「長寿社会」と「少子社会」と言う見方から対比し、今後、「人口減少社会」へ突入していくことが我々にとってどのような意味を持つことになるのかを考える。またその際に考えられる「多様性」(多様な価値意識や価値観)をさまざまな角度から考えていくことの重要性にも焦点をあてる。</p> <p>(39 原 克彦／3回) 私たちは、氾濫する情報の中から必要なものを取捨選択するために、これまでに習得した知識を動員して判断し、生活や学習、社会活動に情報を活用している。さらには、自分の考えや思いを伝えるために新たな情報を創造・発信することも行っている。一方、最近私たちの生活圏に徐々に登場し始めているコミュニケーション型ロボットやAIも、人と会話するために必要な知識と情報を取り込むことや、推論や判断などに必要なデータを大量の情報の中から抽出して利用している。人と情報機器の「知能」についてロボットにも登場してもらい考える。</p> <p>(46 今林正明／3回) 3回の講義のなかで、企業の社会的使命、戦略、活動および業績がどのようにWeb上に示されているのかを知り、興味をもった企業についてレポートにまとめられるようになることを目指す。現代社会において、全ての人は、就職先としてだけでなく、消費者として、また、市民として企業と関わりを持っている。インターネット社会になって、「企業を知る」ための情報は、容易かつ安価に得られるようになった。しかし、「どのようにして、膨大なWeb上の情報を読めばよいのか？」という新たな課題が生まれた。この課題を知の探検によって解決しよう。</p> <p>(29 金澤裕之／3回) 「ことばは変わる」とよく言われる。このことは日本語の場合にも当てはまると考えられ、現代においても、さまざまなレベルでの変化や変容が続いている。ただし、しばしば話題になることの多い流行語のような一過性の強い場合を別にすると、案外、我々自身が意識していないような部分で、微妙な変化が生まれているケースがある。本担当部分では、そうした事例のいくつかを提示して、その背景にあると思われる理由やメカニズムなどについて、受講者と一緒に探究してみることにしたい。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>(概要) 目白大学のいま、そしてこれまでとこれからを知り、目白大学で何を学べるか、また何を学ぶべきかを探る。本授業は学部・学科を超えたオムニバス形式で、新入生を対象に、目白大学の学びの原点、教養教育、キャリア教育の意義、及び目白学園・目白大学の創立から今日までの歴史、並びに目白大学と環境、地域、メディア、国際交流など、幅広いテーマを取り上げて、学生諸君が目白大学での学びと学生生活のヒントを発見するためのきっかけを提供する大学入門「自校教育」講座である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(52 飛田 満・27 沢崎達夫／2回) (共同)</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
共通科目	総合科目	「目白大学」を知る	

		<p>本講座のねらい・内容・進め方などについて確認する。また目白大学の学びの原点について理解する。</p> <p>(70 今野裕之・20 新井正一・85 牛山佳菜代・54 仲本なつ恵/4回) (共同) 目白大学の教養教育、情報教育、キャリア教育の考え方について、また新宿キャンパスと岩槻キャンパスの学生生活について学ぶ。</p> <p>(70 今野裕之・42 太原孝英・52 飛田 満/3回) (共同) 目白学園の歴史、および目白大学のこれまでの発展について学ぶ。</p> <p>(52 飛田 満・43 三上義一・41 鑑屋 一・59 鈴木章生・76 鷲谷正史/5回) (共同) 目白大学の環境、メディア、国際交流について、また目白大学周辺の歴史文化と連携交流について学ぶ。</p> <p>(27 沢崎達夫/1回) 目白大学が目指す大学の将来像について考える。本講座のまとめと振り返りをおこなう。</p>	
共通科目	総合科目	<p>科学的なものの見方・考え方</p> <p>(概要) 文系の学生に、現代社会の基礎を形作り、人類文明の発展をもたらした自然科学、工学などの分野の基本的な考え方、方法論を紹介する。自然界、人間社会に潜む未解決問題を発見し、論理的思考、帰納的・演繹的論理によるモデルの構築、問題の解決、現実問題への適用法について講義する。現実世界を認識するために行われる、観測、実験等によるデータ取得には、観測機器の限界、人間の認識の不確実性によって、つねに誤差が付きまとう。この誤差を含むデータから真に有効な情報を取り出すための、統計的なものの見方などについても講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 平林隆一/4回) コペルニクス、ガリレオによる科学革命を経て、ニュートンに至る近代科学の発展について、科学史的な観点から講義を行う。その後、物理学におけるアインシュタインの「重力理論」、ニールス・ボーア、シュレジンガー、ハイゼンベルクらによる「量子力学」へのパラダイム変換を扱う。生物学におけるダーウィンの「進化論」、ワトソン・クリックによる「二重らせん」の発見によるパラダイム変換を取り上げる。最後に、地球科学における「プレートテクトニクス」、「岩石と生物との共進化」というパラダイム変換を講義し、科学的なものの見方・考え方を講義する。</p> <p>(22 張(渡辺) 元宗/4回) 科学現象や社会現象を観測・把握するには、観測するときのスケール、調査対象の規模の問題が生じる。このとき、観測機器の精度、調査対象の規模によって、取得データには必ず誤差が伴う。この誤差を伴ったデータに基づいて、事象の因果関係、仮説の妥当性等を論じるには、統計的なものの見方、方法が必須である。相関分析、回帰分析、構造モデル等を理解することによって、表面上だけからは見えない物の本質を見るということを学ぶ。</p> <p>(81 藤谷 哲/4回) 地球温暖化といった自然現象を例にあげると、気象学者による科学的な研究と、技術者による地球温暖化防止策技術の開発、経営者による地球温暖化防止策の採用に対する意思決定、政治家による温暖化防止に対するフレームワークの構築が少なくとも必要である。このときにそれぞれの階層から他の階層への情報のやりとり、コミュニケーションが不可欠である。また、学者、技術者と大衆との情報ギャップを解消するためにも、コミュニケーションが欠かせない。この講義は、情報とは何かということから始めて、科学・技術情報と博物館学等も含めコミュニケーションについて科学・技術の大衆化という観点から解説し、科学的なものの見方を学生に身につけさせる。</p> <p>(68 伊藤利佳/3回) 「二重らせん」を学者が発見したとしても、「生物工学」によって、その技術を品種改良に結びつけなければ、消費者の利益にはつながらない。そのためには、例えば「野菜工場」のように、企業が科学的知見を工業化することによって、低価格化、大量生産、高品質化、魅力的品質をもったものができあがって、はじめて消費者の利益につながるものとなる。ここでは、研究・技術開発の事例をいくつかとりあげることによって、科学における発見からその製品化を、そして消費者ニーズの発掘からその製品化を見ることによって、科学的なものの見方が、現実社会にどう役立っているのかを講義する。また、マーケティングと技術の関係についても講義する。</p>	オムニバス方式

共通科目	総合科目	雑穀文化を学ぶ	<p>(概要) 日本における雑穀の食文化、雑穀と健康、雑穀の栄養学、雑穀と食育について、多面的な視点から学び、食文化と食のdiversity, sustainabilityについて考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(73 石川正憲／11回) 初回にオリエンテーション、以降「雑穀と健康」をテーマに講義。アレルギー体質者、健康食品としての重要性から雑穀と健康について考える。最終回では、講義での課題学習と調理実習に基づき、事前に準備した課題から、雑穀文化について総合的にまとめた発表・討論を行う。 また、講師を交えて、「雑穀の栄養学」「世界各国の雑穀」「雑穀と食育」「雑穀と地域振興」といったテーマの講義を行う。</p> <p>(25 荏原順子／2回) 「雑穀と食文化」をテーマに講義。これまで白米が重視され、アワ、ヒエ、キビ、ソバ雑穀は劣るという価値観の背景には、農山村文化に対する軽視や蔑視があった。昭和初期からの農山村の食生活を雑誌の記事からたどり雑穀食を知る。</p> <p>(73 石川正憲・25 荏原順子/2回) (共同) これまで学んだ雑穀の知識を元に、調理実習室で健康と現代の食文化にあった雑穀を用いた料理を作り、発表を行う。</p> <p>*小グループに分け、ワークショップ形式で授業を進める。各担当者は、初回で概要を講義し、各グループに課題を設定させ、各担当の最終回でグループごとに発表する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
共通科目	総合科目	感性を磨く芸術論	<p>(概要) 芸術は、人生を豊かにし、心を安らげる力を持っている。学生時代にさまざまな分野の芸術に触れることは、将来にも良い影響を与えると考えられる。本講義では、書道、茶道、華道といった日本の伝統文化や、多様な芸術に触れることを目指している。各分野の芸術や文化に触れることで、美しいものを観て、聴いて、触れて美しいと感じることを育み、芸術学、音楽学、造形学、芸術史、音楽史、デザインそして日本の文化などについて理解を深め、自らの感性を豊かにし、視野を広げることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(48 おかもとみわこ (小原美和子) /8回) 芸術学から見た芸術とは何かについて、資料などを用いながら考えていく。その上で書道、華道、茶道といった日本の伝統的文化にも触れ、芸術的な観点からこれらの伝統文化に親しむことができよう導いていく。状況に応じて、演習も含め、体験的に感性を磨くことを心掛ける。また、芸術分野で活躍している外部講師による講演を1回設ける。</p> <p>(35 三森桂子 /4回) 音楽とは何か、なぜ音楽は人を引き付けるのか、といった視点から音楽の芸術性を考えてみる。また、歌うことはどのような意味があるのか、校歌を歌うことで体験的に学んでいく。さらに、外部講師を招き、多様な楽器に触れ、その音色の面白さなどを体験することで、音楽に関する感性を高めることを心掛けるようにする。</p> <p>(119 山中智省 /3回) 表象文化についての研究を行う。日本のマンガ、アニメ、ゲームといったサブカルチャーは今、国内外でどのように捉えられているのか。本授業ではこれらのサブカルチャーを、商業的なエンターテインメントの枠組みにとどまらず、現代日本の文化・芸術として考えていくことで、多角的な視点から物事を捉える見方と、文化・芸術に対する新たな感性を育むことを目指す。</p>	オムニバス方式
		知の対象としての恋愛	<p>(概要) 恋愛は、青年期の発達課題として重要であるばかりでなく、生涯を通じ、充実した人生の源となり、苦悩の源ともなり得る。そのため、社会学・心理学等の社会科学においては、恋愛の成立・崩壊機序や恋愛の心理社会的影響が研究され、文学・芸術学等の人文科学では、芸術作品の主題としての恋愛が研究されてきた。本授業においては、さまざまな学問領域における恋愛研究を学ぶことを通して、恋愛現象を知的かつ多面的に理解し、恋愛現象の学際的理解を導くことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(117 高田治樹 /2回) 初回に授業計画の説明および、本科目の設置趣旨と関連する学問についての概説を行い、最終回に全体の俯瞰図および学問的意義について</p>	オムニバス方式

共通科目	総合科目		<p>て論じる。</p> <p>(2 小野寺敦子／2回) 発達心理学における恋愛。恋愛の心理的基礎としての愛着の発達について学ぶ。</p> <p>(12 宇野耕司／3回) 社会福祉学における恋愛。結婚制度の意味や結婚・子育てにまつわる社会保障制度について学ぶ。</p> <p>(119 山中智省／2回) 現代文学における恋愛。現代文学における主要なモチーフとしての恋愛について学ぶ。</p> <p>(76 鷺谷正史／2回) 映像作品における恋愛。映像作品における主要なモチーフとしての恋愛について学ぶ。</p> <p>(105 藤巻貴之／4回) 社会心理学における恋愛。恋愛の成立・崩壊機序と心理的影響について学ぶ。</p>	
共通科目	総合科目	人間と遊び	<p>(概要) オランダの歴史学者ホイジンガは、人間の本質をhomo (ホモ) ludens (ルーデンス) <遊戯人、遊ぶ人>ととらえた。遊戯、即ち遊びこそが人間活動の本質であり、文化を生み出す根源だと考えた。人類が築き上げた輝かしい文化は、人間のこのような遊びの蓄積から築き上げられてきたと言える。本科目では、歴史学(世界史)、スポーツ活動、音楽活動、美術・造形活動の4分野から、「人間とは何か」という問いへ学際的にアプローチし、人間についての総合的考察を深めることを目的とする。4分野においては、一部演習的な活動を実施することになっている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(34 田尻信壹(信一)・124 阿久津美紀／5回) (共同) 人間の歴史から見た遊び；人間の歴史と遊びの関係を、世界史の中の余暇、芸術、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷や意義を探究し、受講生に人間と遊びの関係を考察させ、第4回以降の授業の道標とする。</p> <p>(23 山本礼二・83 雪吹 誠／4回) (共同) スポーツ活動と遊び；人間の遊びをスポーツの視点から探究し、人間の文化活動にとってのスポーツの重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p> <p>(90 小林恭子／3回) 音楽活動と遊び；人間の遊びを音楽の視点から探究し、人間の文化活動にとっての音楽の重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p> <p>(91 佐藤仁美／3回) 美術・造形活動と遊び；人間の遊びを美術・造形活動の視点から探究し、人間の文化活動にとっての美術・造形活動の重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p> <p>備考：15回の授業の中で、歴史学、スポーツや芸術活動等の専門家を外部講師として招聘し、受講生に文化の専門性について触れさせる(2回程度)。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
共通科目	総合科目	社会生活のデザイン	<p>(概要) 本講義では、「私たちは今、どのような時代に生きていて、これからどこに向かっていくべきか」という問いに関して、各自が考えるための基礎知識を提供する。さらにそれを活かし、社会をデザインする視座の理解と素養を学ぶことを狙いとしている。具体的には、社会生活と経済活動との関わりを軸にしながら、経済社会をかたちづけている制度や思想の変遷、企業活動と社会との関係性の変化、生活者(消費者)の社会における役割の変化について、オムニバス方式で授業を行う。また内容の理解を深めるため、ワークショップを3回程度実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(103 廣重剛史／6回) 現代の経済と社会を理解するための「大きな見取り図」について講義する。具体的にはまず、世界と日本が直面している、格差の拡大や環境問題の現状を確認する。そして、その主たる原因とされる、我々の近代的なライフスタイルやものの見方・考え方について社会学的な</p>	オムニバス方式

		<p>観点から反省する。</p> <p>(104 柳田志学／4回) 社会を理解するには、その構成要素である「企業」や「生活者」の役割・変遷そして課題を理解する必要がある。社会変化の中で「企業」がおこなうビジネスや「生活者」の消費活動はどのように変わってきたのかを学んでゆく。</p> <p>(60 田中泰恵／5回) 現代の生活者（消費者）には、単なる商品・サービスの受け手としてではなく、社会、経済、環境などに消費が与える影響を考慮して商品・サービスを選ぶなど、公正で持続可能な発展に貢献するような消費行動をとることが求められている。このような役割が求められるようになった歴史や背景を理解し、各自の社会参画のための基礎力を養う。</p>	
共通科目	総合科目	<p>子供とメディア</p> <p>(概要) 子供が接する絵本やアニメ、放送、情報機器など多様なメディアに関する諸問題を取り上げ、それらの仕事に関わってきた人の体験談や考え、統計資料などの根拠をもとに子供に与える影響を考える。幼児期における絵本や童話、幼児期から大人まで広く接するアニメーション、テレビ、ゲームなどさまざまなメディアがこれまで社会に与えてきた良い影響を中心に取り上げ、それらをさらに進展させるための影の部分への子供の適切な対応能力について考える。これらを通して、子供の適切なメディア活用力への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(67 安楽 豊／4回) 乳児期における絵本との出会いと影響、幼児期における絵本や童話の役割と影響、小学生と絵本・童話・物語、絵本や童話はどのように作られているかなどについて概論する。また、外部講師を招いて絵本におけるブックデザインの具体例とその効果や影響に関する講義とディスカッションを行う。</p> <p>(76 鷲谷正史／4回) アニメーションに関する内容を中心に、「童話」や「漫画」とアニメーションの関係を概説する。また、具体的なアニメーションの制作現場で活躍する外部講師を招き、制作過程の実際などを紹介していただき、学生とのディスカッションを通して内容の深化を図る。</p> <p>(39 原 克彦／7回) 子供が利用するメディアの中でもさまざまな情報機器に関する内容を中心にその種類をはじめ、子供の生活や遊び、学びを支えるメディアについて統計資料とともにその内容を概論する。また、子供の遊びの一つであるゲームの開発現場の外部講師を招き、開発過程やネットゲームの実情を紹介していただきディスカッションを通して考えを深める。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>「観光」で読み解く 現代社会</p> <p>(概要) 「観光」は、どこに視点を置くかで多様なアプローチが可能となる。例えば、私たちの「行動」、観光客、地元住民、民間、行政の「社会関係」、観光客が訪れる地域の都市計画、まちづくりや観光地化によって生じるさまざまな問題を考える「社会システム」の次元や、国際的な人・モノ・カネの移動を考える「グローバル化社会」の次元などが挙げられよう。本講義では、「観光」という現象が関係する多種多様なトピックをもとに、現代社会の諸問題を読み解くことを目指す。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(44 早川雅子／2回) 観光地化が進む中で大きく変わるものもあるが、その土地の伝統的な営みが捉え直されることもある。観光を通じて、改めて伝統文化や家族といった事象を見つめ直す授業を行う。</p> <p>(56 大西律子／7回) 現在の日本において観光がなぜ注目されるのか。各地のまちづくりや都市計画はもとより、観光地化する地域の自然環境等を活かした新たなツーリズムのあり方についても学ぶ授業を行う。</p> <p>(61 石井貫太郎／1回) 観光資源として活用される戦争遺産の事例を通して、「現代社会における平和とは何か」を見つめ直す授業を行う。</p> <p>(92 高久聡司／4回) さまざまな形で展開しつつある観光について、その一例として、ポピュラー文化、スポーツ、フードなど私たちにとって馴染みのある領域に着目し、現代社会における観光の特徴について考える授業を行う</p>	オムニバス方式

			う。 (106 藤田茂/1回) 観光地化と博物館について授業を行う。	
共通科目	総合科目	お金とつきあう	(概要) 好きか嫌いにかかわらず、私たちはお金なしでは生きていきません。そもそもお金とは何か、お金は何のために貯めるのか、お金を増やすためにはどうすればよいか、お金持ちは幸せか、借金はしない方が良いのか、会社のお金や税金といった、お金にまつわる歴史、ためになる話を、主に金融論(経済学)、会計学、法学という3つの視点から、やさしく解説します。毎日必然的につきあわなければならないお金についてよく学び、人生を豊かにする秘訣を身につけましょう。 (オムニバス方式/全15回) (45 織田 薫/5回) 金融論の視点から、お金、金利、銀行の歴史と役割、お金の運用などについて学ぶ。 (31 近田典行/5回) 会計学の視点から、お金の記録、計算のしかた、企業のお金について学ぶ。 (55 竹内 進/5回) 法学の視点から、お金をめぐる法律、法的問題、税金について学ぶ。	オムニバス方式
共通科目	総合科目	社会の中のことば	(概要) 社会の中のことばを考察・分析する「社会言語学」についての理解を深める。言語と社会は密接な関係にあり、言語は民族、歴史、文化的背景から多大な影響を受けると同時に、言語がその社会の構築にも影響する。人間の持つ包括的な言語能力が、実際の社会においてどのように現れているのかを考察する。社会言語学の研究の歴史と領域、言語と社会階級、言語とジェンダー、若者ことば、言語政策などを取り上げ、さらには「コミュニケーションの言語学」として、ポライトネスとコミュニケーション、非言語コミュニケーションなどを扱う。 (オムニバス方式/全15回) (24 薬師京子/8回) ことばとその社会文化的背景との関係を理解する。地域方言、言語と社会階級、世界のリンガフランカ、言語政策と言語計画、さらに言語をめぐる性差を考察対象とする「言語とジェンダー」について学び、ことばの多様性と社会問題について考える。 (75 河野秀樹/7回) 文化の定義・異文化とは何か、コミュニケーションとは何かを学ぶ。代表的なコミュニケーションモデル、コミュニケーションギャップのメカニズム、非言語コミュニケーション、カルチャーショックのメカニズムと異文化適応、異文化接触の意義と課題について理解を深める。	オムニバス方式
共通科目	総合科目	日本語再発見	(概要) 「日本語再発見」という科目は、言語(日本語)と教育に関する知識と能力を高め、日本語を多角的に考察することを目的とする。具体的には、(1)自身の日本語を客観的に捉えることを出発点とし、(2)社会の中で使われている日本語を考察し、(3)「やさしい日本語」で社会に働きかける力を獲得することを目指すものである。各々の授業内容を充実させるために、担当者の専門性を生かしてオムニバス形式で授業を行う。 (オムニバス方式 /全15回) (101 鈴木美穂/3回) 「コミュニケーションツールで使われる日本語」をテーマとし、会話以外で日常的に使っているさまざまなコミュニケーションツールで使われる日本語について分析し、自分たちが何気なく使っている日本語について考える。まず、コミュニケーションツール(SNSなど)について取り上げ、特徴、マナー、使い方、メリットとデメリットについて考える。考察を活かしてそれぞれのコミュニケーションツールの取り扱い説明書をグループごとに作成する。 (78 高橋恵利子/2回) 「日本語の音声のバリエーション」をテーマとし、日常的に無意識に使っている日本語を意識的に捉え直す。特に音声面にフォーカスして考えることを目的とする。たとえば、語尾や句末のイントネーション、アクセントの平板化など、実際に自分たちの会話を録音して特徴を分析する。登場人物の感情や設定を変えることで、表現のバリエーションを考えるなどして、自分たちの言語表現を客観的に捉える。	オムニバス方式

		<p>(50 久保田美子/2回) 「日本語の語彙のバリエーション」をテーマに、自称、他称、家族の中での呼称、挨拶表現など、自分が普段使っている語彙について、自己内省やグループディスカッションを通して客観的に捉え直す。自分の中にあることばのバリエーションの存在や他者との異同について気づくことを目的とする。</p> <p>(102 若井(大河原)知草/2回) 「日本語の表記」をテーマに、日本語を世界のさまざまな言語と比較した際に、特に表記の面でどのような特徴があるのかを、日本語史も含めて検討する。また、留学生などの受講にも配慮し、海外の漢字の使用実態についても考察することを目的とする。日本語の表記の特性を知るために、具体的には、日本人の識字率、日本語表記の変遷、海外の漢字使用などを検討する。また、マンガと日本語の表記を知る。マンガが読める日本人の読解技術と日本語の表記の特性との関係を検討する。</p> <p>(79 鈴木秀明/2回) 会話能力の構成要素を客観的に捉えるとともに、日頃の自身の会話能力を振り返る。また、ケース教材を使用して、コミュニケーション上の問題点の分析や解決策の提案に取り組む。具体的には、コミュニケーション能力の構成要素を明示し、各要素がコミュニケーションにおいて、どのように作用しているかを確認する。その後、コミュニケーション上の問題点が書かれた資料を配布し、内容を確認する。小グループでの討論を通して、問題点の背景の分析、および問題解決に向けて提案を導く。授業後半では、グループごとに結果を発表し、全体で共有する。</p> <p>(71 池田広子/4回) 「やさしい日本語」をテーマに、社会で使われている日本語を批判的に観察し、共生時代において自分たちが「日本語」の面でできることを検討する。「やさしい日本語」の特徴や成り立ちを概観した上で「やさしい日本語」と「一般的な日本語」を比較し、「やさしい日本語」を作る。例えば、観光地、オリンピック、地震で使われる「やさしい日本語」を確認し、やさしい日本語にするためのルールを理解し、グループで「やさしい日本語」を作り発表する。</p>	
共通科目	総合科目	<p>コトバの実験室</p> <p>(概要) この授業では、人文学の対象として長く議論されてきた言語現象を自然科学的に研究する手法と最近の研究知見を紹介・議論し、受講生に仮説検証に基づく科学的思考の理解を促すと共に、言語ならびに学問的对象に対する多面的な視点の重要性を実感させることを目的とする。主な話題は、母語の発達と外国語学習、言語知識の構造と使用についての原理・規則性、言語の喪失、言語と思考の関わり、言語知識の在処としての脳の構造と機能などである。数学的処理の詳細は控え、実験のデモンストレーションや動画を通して、文系学部学生の数学・理科に対する恐怖心を払拭し、知的好奇心を喚起することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(62 時本真吾/8回) 失語症の症例や、機能的磁気共鳴画像法、脳波、近赤外光脳計測法を用いた生理実験を主に紹介・議論し、言語知識の神経基盤の考察を通して、受講生が言語と心、脳、体の関わりを実感できるように導く。</p> <p>(84 石原 健/7回) 音声の産出と理解に関する行動実験の例を主に用いて、言語産出・理解の心的メカニズム、また、言語知識と視覚、記憶、運動制御など他の認知機構との関わりを議論する。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>人文系学生のための情報ネットワーク・データ活用入門</p> <p>(概要) SNS、グローバルネットワーク、スマートフォンなど昨今の情報通信ネットワーク技術(ICT)の基礎的理解から、ネット利用の動向、またそれらを活用する上で生ずる社会的課題とその要因を探る。さらに情報との関わり方、社会の様々な場における情報活用術を概観する。社会生活での活用、消費生活での活用、職業生活での活用など、具体的な実学の内容にも踏み込み、情報社会をリードするための素養を身につける。毎回の授業内容を充実させるため担当者の専門性を活かしてオムニバス方式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 新井正一/4回) 世界中のコンピュータをつなぐインターネットは、さまざまな技術に支えられている。それぞれの技術はネットワークを構築運用する必要性から開発され体系化されている。これらの技術を学び、単に使えるユーザから脱し、理解して使えるユーザとなることをめざす。</p>	オムニバス方式

			<p>(22 張 (渡辺) 元宗/4回) 身近な社会現象のデータをもとに、図表の読み方 (円、横棒 (100%積み上げ)、折れ線グラフ、散布図、ヒストグラム) や基本統計量 (平均、最頻値、中央値、分散) の役割を理解する。次に、バラツキを表現するグラフ箱ひげ図、線形回帰によって対象の社会現象の特徴を分析・考察する。</p> <p>(80 内田康人/4回) 情報 (記号・データ) とは何か、いかなる存在か、どのような機能をもつのかを再確認しつつ、人間 (身体・意識) や私たちの社会・生活との関わりについて理解を深める。情報の3つの観点、「パターン」「意味」「ツール」に着目しながら、人間・社会のなりたち、言語/非言語コミュニケーションのしくみ、生活の多様な場面における意味・価値・イメージの生成、社会の構想・設計・デザインについて考えていく。</p> <p>(49 宮田 学/3回) 身近な社会の体験事例を取り上げ、ネットワークの視点からそれらの現象について考察する。具体的には世間の広さ、格差社会、つながりの強さ等の社会的ネットワークについて考察し、社会現象に対するネットワーク的な見方を身に付ける。</p>	
共通科目	総合科目	<p>マスメディア学入門</p>	<p>(概要) 現代社会において大きな影響力を持っているテレビ・新聞・映画などのマスメディアについて、さまざまな視点から論じる。それぞれのメディアの特徴、現況、その影響力などを、学問的・実務的な立場から取り上げた専門家による講義を聞くことで、幅広くマスメディアについて学び、考えることが本授業のねらいである。日常的に接しているマスメディアのさまざまな側面を学び、オーディエンスとしてより賢くマスメディアに接するメディアリテラシーを身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(63 川端美樹/3回) マスメディア学の概要の導入を行い、全体像を把握させる。またインターネット社会におけるマスメディアの今後について考えさせる。</p> <p>(43 三上義一/2回) ジャーナリズムとマスメディア、雑誌・出版メディアの現在と今後について論じる。</p> <p>(77 吉田則昭/2回) 新聞の歴史を世界の視点、日本の視点から講義する。</p> <p>(85 牛山佳菜代/1回) 地域とケーブルテレビの成り立ち、その機能・特徴・現状について論じる。</p> <p>(93 西尾典洋/1回) テレビ放送と技術について論じる。</p> <p>(108 溝尻真也/2回) マスメディアとしてのテレビとその特徴、社会における機能などの概要を論じるとともに、テレビにおける音楽番組について論じる。</p> <p>(74 石川透/2回) マスメディアにおける広告、特にテレビCMについて論じる。その成り立ち及び特徴、表現について概説する。また、世界のCMと日本のCMについて比較の視点から論じる。</p> <p>(113 馬場一幸/2回) マスメディアとしての映画について論じる。その成り立ち、歴史と現状、外国における映画と日本の映画の比較、さらに映画の影響力について論じる。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>江戸から東京へ</p>	<p>(概要) 異分野としての日本史学や民俗学の基礎知識を提供するとともに、応用としてのフィールドワークを実践することにより地域社会の伝統と現代を考える力を養うことを目的とする。現代社会の原点と言われる近世を中心に、近世の城一城下町一県庁所在地、街道と鉄道といった近世から近代への変化を念頭に置いたトピック的な内容の積み重ねにより構成する。合わせて史料論的な内容を加味する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(72 赤木妙子/5回) 古代～中世の東京湾地域、水都としての江戸・東京、文明開化、関東大震災・東京大空襲について、具体例を挙げながら講義する。</p> <p>(59 鈴木章生/5回) 東京の都としての歴史、成り立ち、文化創造と消費文化の発展</p>	オムニバス方式

			<p>東京の都心部と周縁性、盛り場の成立と構造、文化創造と消費文化及び都市の祝祭と暴力について、江戸・東京の地図、絵画、写真をもとに講義する。</p> <p>(88 山口 晋/5回) 高度経済成長期の東京、インナーシティ問題、再開発問題について講義する。</p>	
共通科目	総合科目	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	<p>(概要) 「ビジネス」は、現代社会を支える基本的な仕組みのひとつであり、その成功のために最も必要なことは、「人」と、人の集合体である「組織」から学ぶことである。本講義では、偉大な事業や実績を残していた経営者や先進企業の事例を題材に、その志やリーダーシップ、独創性などを、社会科学的な問題解決アプローチで考察する。また、成功者がはじめから順風満帆だったわけではない。過去の失敗や逆境も併せて紹介することで、現代社会を生き抜くための智慧を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(64 土井 正/4回) ITやインターネットの分野の先達から学ぶ。 例) スティーブ・ジョブズ、ビル・ゲイツ、ジェフ・ベゾスなど</p> <p>(30 末廣啓子/3回) 商業や製造業で成功を収めた人物やビジネスを紹介する。</p> <p>(116 宮川宏/3回) 経営史および組織論、人的資源管理の観点からのまとめ。</p> <p>(36 吉原敬典/5回) プライダル、旅行、医療・介護業などから、おもてなしの心の重要性を学ぶ。 例) フェリーチェ&ラソ、旅工房、青梅慶友病院など</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	ことばの「しくみ」と「はたらき」	<p>(概要) この授業の目的は、人間のことばがどのような構造を持ち、どのような機能を果たしているのかについての知見を得ることである。言語学の中でも理論的な側面に重点を置きつつ、母語話者が母語について持っている言語知識が実際の言語使用においてどのように活用されているのかを紹介する。この授業を受講することにより、普段何気なく話したり聞いたりすることばへの理解が深まり、より豊かなことばの使用への意識を高めることが出来る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(120 渡丸(中村) 嘉菜子/5回) 理論言語学、とりわけ統語論が研究対象としている様々な英語の事象(例:省略表現、語順の変化、代名詞の指示対象の解釈など)を例として取り上げ、その背後にある規則性とその分析の背景となっている言語観への理解を深める。</p> <p>(112 伊藤大輔/5回) 現代中国語について、統語論的観点と意味論・語用論的観点の双方より概観する。その上で、中国語を系統的にも類型的にも異なる日本語や英語などの諸言語と比較対照し、各言語の構造および機能にどのような共通点と相違点が存在するかということをも明らかにする。</p> <p>(29 金澤裕之/5回) 我々の多くが、ふだん無意識に利用している「日本語」について、できる限り客観的な立場から、音声・音韻、文字・表記、語彙・語種、文法・構造、意味・表現、といった各方面に関して、具体的な例を多く挙げて受講者の興味を喚起しつつ、彼らとともに問題を考えていくという形で、考察を深めていきたい。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	東アジアの言語と文化	<p>(概要) 中国・香港・台湾など東アジアにおける中国語圏の社会について、それぞれの多様性や独自性を歴史・文化的側面から考察し、受講者の基礎的な理解を深めることを目的とする。また、「東アジアの中の日本」という視点を設定し、一国主義的な枠組みにとらわれない柔軟な世界観の形成を受講者に促す。授業の内容は、主に中国および台湾の歴史や文化、言語に関する概説で、2名の教員が専門性を活かし、オムニバス方式で授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(41 鏡屋 一/7回) 東アジアのリンガ・フランカである漢字の誕生と漢字文化圏の形成過程について、また食文化の伝播を焦点に東アジアにおける文化触変(アカルチュレーション)について、さらに東アジアにおける近代化とポスト・モダン化の諸問題について講述する。</p>	オムニバス方式

			(47 胎中千鶴／8回) 台湾社会について、17世紀から現代までの歴史・文化を、中国大陸や日本列島との関係性を視野に入れつつ概観する。また、現代台湾の複雑な言語使用状況に関しても各種資料を提示し、その重層性の背景にある歴史的要因について講述する。	
共通科目	総合科目	古典に学ぶ	日本社会や人間というものの本質について文学をとおして考え、また、その考えたことを表現するためのさまざまな手段について学ぶ。 古典「を」学ぶのではなく、[古典「に」学ぶ]科目。つまり、正確な読解力や文法知識を身につけることが目的ではない。いろいろな作品に触れ、実際に現代日本人が古典「に」学んで表現している事例（演劇、アニメ、絵画など）も多く紹介する。	
共通科目	総合科目	グローバルな視点で学ぶ 社会と人間	(概要) 情報社会の拡大、経済活動のグローバル化で、世界が近く、利便性も高くなった一方で、地球温暖化による気象変動、宗教対立による戦争、貧困や経済格差、人口問題、教育問題、少子高齢化など、世界的規模で共通した課題は多い。しかし、人間はさまざまな課題に対して知恵を出し合い、社会との相互作用を通じて改善する努力をしてきた。この科目では、社会と人間に関わる課題である社会福祉、精神保健、心理、子育て、教育に関わるグローバルな課題に焦点を当て、世界の動向を理解し、改めて日本の現状について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (87 平野寛弥／3回) ヨーロッパにおけるソーシャル・インクルージョンの展開を学ぶ；ヨーロッパでは近年、ソーシャル・インクルージョン (Social Inclusion、社会的包摂) の実現が重要な政策課題となっている。講義ではソーシャル・インクルージョンの思想的源流、社会的背景、具体的な取り組みについて学ぶ。 (65 井上 (岡田) 牧子／3回) 精神医療保健福祉の現状を国際比較することから日本社会を考える；精神医療保健福祉の問題を考えることは、精神病や精神障害のことはもちろん、「依存症」「虐待」「ホームレス」「自殺」「高齢化」などの社会問題を考える糸口になる。また、これらの問題は、「人権とは何か」等、社会の在り方を問いかけている。日本の精神医療保健福祉の現状を諸外国、特に東アジアにある韓国の支援などと比較し、私たちの社会の在り方を考えたい。 (11 笹川 (血輪) 智子／3回) グローバル心理学とメンタルヘルス；心理学領域においては、世界規模での課題解決や社会的現象の探求を目指すための枠組みとして、近年グローバル心理学という分野が提唱されている。そのなかから精神的健康をテーマとして取り上げ、世界各国におけるメンタルヘルス対策の現状や疾患理解における文化の影響性、サービスの利用に際しての課題点などについて議論する。 (89 荒牧 (河東) 美佐子／3回) 子育て・保育の国際比較；乳幼児期における環境は、人の生涯発達に大きく寄与することが多くの研究によって明らかにされている。各国の歴史や文化に根付く子育てや保育、幼児教育の違いや特徴について概説する。 (57 石田好広／3回) 持続可能な開発のための教育論；地球環境問題や食糧問題、人口問題等のグローバル化社会の課題に対して、理解を深め、その課題解決のための方策を考え、よりよい社会づくりに貢献できる能力や態度の育成のための教育のあり方について考察できるようにする。	オムニバス方式
共通科目	総合科目	サステイナブル社会 を考える	(概要) サステイナビリティ (持続可能性) という言葉は、かつては人口、資源、エネルギー、汚染等の地球環境問題の解決 (地球環境の持続可能性) を意味していたが、今日では貧困、格差、人権、ジェンダー、紛争等の解決 (人類文明の持続可能性) をも意味するようになった。本講座では、地球環境と人類文明のサステイナビリティ、サステイナブル社会の実現に向けた主要なテーマを取り上げて、講義と演習の両形式を取り入れたワークショップ型の授業を展開する。 (オムニバス方式／全15回) (52 飛田 満／7回) サステイナビリティ、サステイナブル社会についての導入的授業から始める。グローバル問題としての地球環境問題とエネルギー問題、及び「持続可能な開発のための教育」 (ESD) について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。 (103 廣重剛史／4回) グローバル問題としての自然災害リスクと経済のグローバル化に	オムニバス方式

			<p>伴って起こる諸問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p> <p>(88 山口 晋/2回) グローバル問題としての人口・都市問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p> <p>(40 堀内直哉/2回) グローバル問題としての平和・人権問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p>	
共通科目	総合科目	食と農から考える 地域と世界	<p>(概要) 日本の食糧自給率は非常に低い。世界的な食糧不足が懸念される中、「農」の中心である地方の農村では、農産品のブランド化、輸出促進および流通改革といった振興策が推し進められている。さらに、「食」をめぐる問題としては、量より質、そして安全性が消費者から強く求められるようになってきている。本講義では、「食」と「農」に焦点をあて、日本の食糧調達の見きとTPPをはじめとする国際情勢による変化について学ぶ。生産から消費までのサプライ・チェーンを概括し、併せて消費者の倫理的な製品選択行動について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(100 越川靖子/5回) 食・農産品のブランド化と国際化、地域活性化</p> <p>(21 平林隆一/10回) 食・農産品をめぐる国際関係、経済学視点からの諸問題 食・農産品の流通と消費者行動</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	世界の今を学ぼう	<p>本講義では、地球市民として知っておくべき「世界の今」にかかわる政治・経済・社会面の知識と教養を身に付けることを目的とする。まずは、国際政治の新秩序、自由貿易と保護主義、企業のグローバル化とローカル化、社会格差と紛争、環境問題への取り組みといったテーマに沿って、地球全体を俯瞰する。そのうえで地域別（欧州、米州、アジア、中東、アフリカ）の現状・課題について学びながら、最後に日本の果たすべき役割について考えていく。世界の時事問題を複眼的に捉える視野を養い、自分の意見を持てるようになる素地を作る。</p>	
共通科目	総合科目	日本国憲法	<p>憲法や法律、とくに我が国の日本国憲法を身近なものとして理解することを目指す。日本国憲法は前文と103箇条の条文のみで構成される短い法律であるが、それは我々の国の設計図でもある。そこには、「ひとりひとりが『自分の』といえる人生をすごすことができる国」という、この国の理念と実現手段が書かれている。本講義では、個々の条文よりも憲法の全体像やそこにある知恵を学ぶ。さらに、日本国憲法が子どもたちを教育する指針を提供していることを学ぶ。</p>	
共通科目	総合科目	遺跡を科学する (考古学)	<p>考古学とは遺跡や遺物などから歴史を学ぶ学問である。本講義では、その基本的な考え方や考古資料が持つ多くの情報の基礎を講義し、学園内の遺跡などを活用して、より身近に考古学を理解できるようにする。また、遺跡から環境や災害を考えるなど、最新の研究を分かりやすく講義するとともに、史跡公園や世界遺産を通じて遺跡保存の必要性・重要性を理解出来るようにする。このことにより、考古学の各時代の特徴を理解したうえで時代区分を説明でき、遺跡から得られる多様な情報を理解する力の養成を目指す。</p>	
共通科目	総合科目	芸術と人間 (芸術論)	<p>芸術作品は、第一義的には、芸術家個人の精神文化の所産として鑑賞の対象になると同時に、彼/彼女が生きた時代・社会を映し出す鏡でもある。本講義では、そうした多面的意味を有する作品をよりよく理解するために、西洋美術を素材としながら、主題・素材・様式・形式・機能の変遷を歴史的に追跡していく。それは、私たち人間の生きた証しと今後を確認する作業にもなる。本授業では、芸術作品の鑑賞を通して、芸術と人間の関係を考え、人間の感性の豊かな可能性を認識し、同時に、受講者の鑑賞力を高めることを目指す。</p>	
共通科目	総合科目	政治のしくみ (政治学)	<p>昨今の日本社会およびそれを取り巻く国際関係は流動的であり、国内においても国外においても政治的課題が山積している。こうした状況下において、国民は、平和、人権、平等、環境を擁護していく責務を担っている。本講では、こうした責務を果たすべく国内外の政治的諸課題を概観し、日本国民および世界人類としての見識・良識を修得する。さらに、国家および社会の体制基盤である国家の政治活動の論理を理解するために必要な理論および実証的知見の基礎知識を修得する。</p>	
共通科目	総合科目	アジアの歴史と文化 (東洋史)	<p>東洋史は、ヨーロッパ地域を除くユーラシア大陸、および北アフリカ地域についての歴史学の分野である。本授業では、アジアの自然地理学的特徴をふまえ、紀元前のアジア古代文明から、近代アジアの歴史までを概観し、アジア世界の文化的多様性や、現代につながる各地</p>	

			の諸問題の歴史的起源について考える。さらに、アジア各地の多様な歴史・文化について、先入観や通説にとらわれずに受け止め、各自が興味をもったこと、疑問に思ったことを自身で調べ探求する態度の養成を目指す。
共通科目	総合科目	西洋の歴史と文化 (西洋史)	ウエストファリア条約(1648年)の頃に成立したヨーロッパ国際システムは、「国家主権の概念」「国際法の諸原則」「勢力均衡の政策」という三つの特質の上に築かれたと言われている。それは、主権国家を主な行動単位とする国際政治の誕生をも意味していた。この国際システムはやがて地球規模に拡大し、大きな変容を受けながらも、今日の国際社会に継承されている。この授業では、近代ヨーロッパ国際システムの成立過程を学んだ上で、第一次世界大戦へと至るその後のヨーロッパの国際社会の動きについて学習することを目的とする。
共通科目	総合科目	日本の歴史 (日本史)	グローバル化が進行するほど、自国の歴史や文化についての理解は重要となる。したがって、日本列島に生まれ育った我々は、日本という国家や社会とその文化について理解している必要がある。本科目では個々の史実を記憶することよりも、日本史の大きな流れを理解することを重視して授業を進める。その際、日本の歴史が東アジアの国々とのかかわりのなかで展開してきたこと、またヨーロッパ諸国の影響を受けながら発展してきたことについて学ぶことで、日本の歴史を俯瞰的に理解することを旨とする。
共通科目	総合科目	環境物理学	自然と人との共存は地球環境を考える上で重要なテーマの一つである。自然をより深く理解するためには、自然をありのままに観察する力とその自然を支配する物理法則を体系的に理解する力が必要となる。単に、環境問題に関する現象を提示し論じるのではなく、人が自然環境に及ぼす影響や自然環境が人に及ぼす効果を配慮し、人と自然との相互作用を体系的に理解できる力を養う。さらに、気象庁・自治体などの気象や海象などに関する一次情報を収集し、観測されたデータの分析および解釈からその現象を科学的に理解する能力を養成する。
共通科目	総合科目	自然地理学概説	本講義では、地形や土壌、海水・陸水等の地球表面について理解したうえで、気象等の地球表面の自然現象について学び、さらにこれらと生物や人間がいかに関わっているかを理解する。授業では、最初に自然地理学で扱われるテーマと用語について理解することを通して自然地理学の全体像を把握する。その上で、気象観測や地形図の判読など、自然地理学に必要な手法の習得を通して、気候や地形といった自然環境についての理解を深めていく。加えてGIS(地理情報システム)の利用法についても学ぶ。
共通科目	総合科目	やさしい観光開発 (観光開発論)	観光開発は地域経済の活性化、雇用創出、産業波及効果などが期待できる重要な部門であり、日本政府は現在、観光立国を総合的に推進するために様々な施策をおこなっている。本授業では、日本政府が重視しているMICEなどのインバウンド政策について紹介するとともに、グリーンツーリズムやエコツーリズムのように環境と調和した開発(持続可能な観光開発)についても解説する。講義を通して、観光学の基礎知識や応用的知識を習得し、現在の観光動向、観光庁の観光振興政策、旅行者の観光行動を理解することを旨とする。
共通科目	総合科目	社会学	本科目では、大学生が現代社会を理解するための一助として「社会学」という学問について学び、様々な問題や課題を有する現代社会を見る目を養うことをめざす。具体的には、社会学の主要な理論・学説を学び、社会学の基本的な概念について理解する。さらに、少子化問題・医療や福祉の課題・格差や階層化の問題等、現代社会を考える上での重要な論点について考察することを通して、われわれが生きる「社会」がいかなる特徴をもっているのかを理解する。
共通科目	総合科目	法学	この授業では、法の本質を踏まえ、法についての一般的・基礎的な考え方を学び、「法とは何か」について基礎的な理解を得る。法についての知識の習得にとどまることなく、「法的にものを考える力(リーガル・マインド)」を養い、われわれの社会生活にかかわる法律問題をはじめ、時事的法律問題についても考察する力をつけることを旨とする。さらに教育現場に関わる法(制度)の理解を通して、将来の職業に関する法的知識、法律問題に対応しうる力を養成する。
共通科目	総合科目	社会学概論	マスメディアを通して普及・浸透する文化を社会学の立場から分析することにより、社会学への理解を深めることを授業の目標・ねらいとする。本講義では、テレビドラマ、テレビドキュメンタリー、ドキュメンタリー映画、ポップミュージックを取り上げ、これらを社会学的に分析し、講義する。講義を通して、社会学の基本的な考え方を理解し、社会学の基礎的な概念を学び、さらに現代社会の諸問題に対する社会学的アプローチを修得する。
共通科目	総合科目	漢文学の世界 (漢文学論)	本授業においては、漢文読解の基礎を習得しながら、あわせて漢文による漢文学の基層文化を理解し、その豊かな世界を知ることを授業のねらいとする。漢文の原典に親しみ、原典の解釈から漢文学の特質を把握できるようにする。『論語集註』、『唐詩選』、『史記』など漢文学の基本的資料をテキストとして、漢文学の世界に関する理解を深める。なお、本科目は国語教育の教職にかかわる「漢文学」の基礎を学ぶ科目としても設置される。

共通科目	総合科目	現代文学	<p>中高の教科書に掲載されている現代文学の作品を取り上げ、従来問題となってきた読みのポイントや、読解に必須となる基礎的知識を確認しながら新たな読みの可能性を探っていく。さまざまな視点から作品を読む方法を身につけるとともに、現代文学についての興味・関心を深めさせる。授業を通して、現代文学の作家と作品についての基礎的知識を身につけ、さらに作品を読むための方法を身につけるとともに、それを自らの言葉で表現できるようになることを目指す。</p>
共通科目	総合科目	倫理	<p>倫理は、「共により善く生きる」生き方を探究する。第一に問われるのは、共に生きる人との交わり・交わりかたである。倫理へのアプローチは、交わる相手・交わりの方法によって多様になる。人との交わりを考えることを端緒にして、「共に生きること」に関心を深めたい。授業内容は、2部構成である。第1部「倫理入門」では、人と人との交わりの必然性を、人間存在の構造に着目して考える。第2部「現代の倫理」では、現代社会特有の倫理的課題を取り上げ、地球規模の交わりを理解し、より善い選択・生き方について考える。</p>
共通科目	国語	日本語読解演習Ⅰ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語読解演習Ⅰ」という科目は、現代の日常生活や社会生活で目にする多種多様な文章事例を読ませることにより、基礎的な語彙力と読解力の習得を目指す。</p>
共通科目	国語	日本語読解演習Ⅱ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語読解演習Ⅱ」という科目は、「日本語読解演習Ⅰ」の学習を前提に、専門性の高い文章や資料を読ませることにより、より高度な語彙力と読解力の習得を目指す。</p>
共通科目	国語	日本語表現演習Ⅰ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語表現演習Ⅰ」という科目は、読解力の涵養を図りつつ、実践的な学習を通じて論理的な文章を書くための文章表現力、ならびに口頭での応答・談話能力、発表能力（プレゼンテーション能力）の基礎を養う。</p>
共通科目	国語	日本語表現演習Ⅱ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語表現演習Ⅱ」という科目は、高度な読解力の涵養を図りつつ、「日本語表現演習Ⅰ」の学習を前提に、実践を重視した応用学習によって、より高度な文章表現力と口頭での応答・談話・発表能力を養う。</p>
共通科目	国語	専門レポート基礎演習	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「専門レポート基礎演習」という科目は、専門分野への橋渡し科目に位置づけられるもので、テーマ設定の手順、資料の収集と引用の方法、論理的文章の書き方など、基礎的なノウハウや文章表現力の習得を目指す。</p>
共通科目	外国語	英語基礎 (Fundamentals of English) I	<p>本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「英語基礎Ⅰ」という科目は、現代英語で書かれた、内容豊かな書物を読み、語法や文法にも注意しながら、英語の読解力を養うことを目的とする。論理的思考力や異文化理解力の涵養にも資するような科目内容とする。</p>
		英語基礎 (Fundamentals of	<p>本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養</p>

共通科目	外国語	English) II	を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「英語基礎II」という科目は、「英語基礎I」よりやや高いレベルの現代英語で書かれた、内容豊かな書物を読み、語法や文法にも注意しながら、英語の読解力を養うことを目的とする。論理的思考力や異文化理解力の涵養にも資するような科目内容とする。
共通科目	外国語	総合英語 (Integrated English) I	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「総合英語I」という科目は、基本的な語彙やイデオムを学び、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を、基礎的なレベルにおいて総合的に養うことにより、運用能力の基礎を身につけることを目的とする。
共通科目	外国語	総合英語 (Integrated English) II	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「総合英語II」という科目は、「総合英語I」よりややレベルの高い語彙やイデオムを学び、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を、応用的なレベルにおいて総合的に養うことにより、高度な運用能力を身につけることを目的とする。
共通科目	外国語	専門基礎英語 (Basic English for Special Fields)	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「専門基礎英語」という科目は、それぞれの専門分野で用いられる英語 (専門英語) の基礎を学ぶことを目的とする。取り上げる分野は心理学、教育学、社会学、経営学、言語学、医療科学・看護学の6分野とする。
共通科目	外国語	English Test Strategies	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「English Test Strategies」という科目は、1~4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、各種検定試験をはじめとするさまざまな英語の試験を受験するために必要となる知識や、試験に合格するための英語力を養うことを目的とする。
共通科目	外国語	English Using CALL	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「English Using CALL」という科目は、1~4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、CALL教室でCALL教材を使用し、ディクテーション等を行うことによって、リスニング力の向上を図ることを目的とする。
共通科目	外国語	Advanced Reading	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Advanced Reading」という科目は、2~4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、比較的難易度の高い英文を読み、高度な英語読解力 (リテラシー) を養うことを目的とする。
共通科目	外国語	Business English	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Business English」という科目は、2~4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、社内における日々のやりとりやミーティングをはじめ、顧客との取引や接客の場で使われる英語の表現や語法を学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	Communication in the Media	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Communication in the Media」という科目は、2~4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、英字新聞等のメディアにおいて使われる英語の表現や語法を学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	Communicative Listening and Writing	本学の共通科目「外国語 (英語)」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する

			「Communicative Listening and Writing」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、会話やニュース等を聞き、要点と意見を書く練習を行うことによって、「聞く・書く」の2技能に関して、高度の英語力を養うことを目的とする。
共通科目	外国語	Dynamics of English Sound	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Dynamics of English Sound」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、自然なスピードの英語を聞き、英語の音声、イントネーションやストレスの特徴を学び、発音練習を通して英語らしい発音ができるようになることを目的とする。
共通科目	外国語	Film English	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Film English」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、映画などの映像作品を通じて、英語の自然なスピードに慣れ、口語英語の特徴と語彙・イディオムを学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	Practical English Grammar	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Practical English Grammar」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、主として現代口語英語の「骨格」をなす文法事項を学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅰ」という科目は、現代中国語の発音と初歩的な文法および語彙に関する知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅱ」という科目は、現代中国語の理解に不可欠な文法および語彙に関する知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅲ」という科目は、現代中国語の文法および語彙に関する比較的高度な知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	韓国語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅰ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを基礎レベルから習得することを趣旨としている。
共通科目	外国語	韓国語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅱ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを、基礎レベルを終え、初級レベルから習得することを趣旨としている。
		韓国語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、

共通科目	外国語		外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅲ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを中級レベルで習得することを趣旨としている。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、インドネシア語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、コミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、インドネシア語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、フランス語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、フランス語のコミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、フランス語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。	
共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅰ」という科目は、アルファベットや基本的な語彙の発音の仕方を学ぶことから始めて、初歩的な基礎文法に慣れることを目的とする。	
共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅱ」という科目は、英語や日本語との共通性ないしは差異性を意識しながら、基本的な文法事項を全般的に習得することを目的とする。	

共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅲ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅲ」という科目は、基礎文法についての知識を基に、語彙や文法事項、表現方法に関して、中級レベルの語学力を身に付けることを目的とする。</p>
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅰ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、スペイン語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。</p>
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅱ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、スペイン語のコミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。</p>
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅲ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、スペイン語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。</p>
共通科目	外国語	応用中国語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用中国語演習」という科目は、現代中国語の文法および語彙に関する応用的な知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。</p>
共通科目	外国語	応用韓国語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用韓国語演習」は、基礎的な韓国語の学習が終わった学習者を対象に、実用的な場面で韓国語を応用する能力を養成することを目標としている。</p>
共通科目	外国語	応用インドネシア語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用インドネシア語演習」という科目は、「インドネシア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面での応用力を身につけることを目的とする。</p>
共通科目	外国語	応用フランス語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用フランス語演習」という科目は、「フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面でのフランス語の応用力を身につけることを目的とする。</p>
		応用ドイツ語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用ドイツ語演習」という科目は、「ドイツ語基礎Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面でのドイツ語の応用力を身につけることを目的とする。</p>

共通科目	外国語		しながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用ドイツ語演習」という科目は、習得した文法知識を活用して実際にドイツ語の文章を読み進めることにより、読解力を身に付けることを目的とする。
共通科目	外国語	応用スペイン語演習	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用スペイン語演習」という科目は、「スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面でのスペイン語の応用力を身につけることを目的とする。
共通科目	情報活用演習	情報活用演習Ⅰ	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用演習Ⅰ」は、目的に応じて主体的に情報を収集・整理・分析する能力と、情報が社会に及ぼすさまざまな影響を正しく理解し、情報モラルを堅持して、発信する情報に責任を持つ姿勢を養うことを目的とする。
共通科目	情報活用演習	情報活用演習Ⅱ	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用演習Ⅱ」は、情報の受け手側の状況を的確に把握して情報を加工・整理する力を養うとともに、ネットワーク上のコミュニケーションを正しく理解し、クラウド技術も駆使しながら互いに協働する力を涵養することを目的とする。
共通科目	情報活用演習	情報活用基礎演習A	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用基礎演習A」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、コンピュータの機能を理解し主体的に活用できる能力の育成に重点を置いている。
共通科目	情報活用演習	情報活用基礎演習B	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用基礎演習B」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、コンピュータおよびネットワークの基本原則を学ぶことに重点を置いている。
共通科目	情報活用演習	情報活用応用演習	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸問題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用応用演習」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、アプリケーションの活用をとおして、より実践的な能力の育成に重点を置いている。
共通科目	情報活用演習	情報活用特別演習	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸問題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用特別演習」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、さまざまな分野でICTの活用を支援できる能力の育成に重点を置いている。
共通科目	情報活用演習	数と情報	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「数と情報」という科目は、統計的な手法を理解し活用する力や、情報を論理的に表現する力など、科学的な手法を駆使するための基礎的な能力を養うことを目的とする。

共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 1	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ1」という科目は、定期的に身体を動かすことにより、自分の体力を知り、計画的に運動を継続していくための基本的な知識や技能を身に付け健康と体力の向上を図ることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 2	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ2」という科目は、選択したスポーツの実践を通して基本的な知識や技能、フェアプレイ精神、（非言語）コミュニケーション力などを身に付けることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 3	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ3」という科目は、継続的なスポーツの実施で得た多様な技術や知識をもとに、将来教養ある市民へと成長していくための素養を身に付けることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	健康科学	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「健康科学」という科目は、心身の健康について基本的な知識を学び理解するとともに、自らの生活習慣を振り返り、健康的な生活を送るための基礎を身に付けることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	健康科学演習 (心とからだ)	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「健康科学演習(心と身体)」という科目は、心と身体についてより深い知識を学び、心理状態・運動・栄養が身体とどのように関連しているか理解させ、自ら考え行動するための実践力を養う。	
共通科目	キャリアデザイン	専門とキャリアA	本学の共通科目「キャリアデザイン」は、将来教養ある市民として自己の社会的責任を果たしていくために必要となる、基礎的な知識や能力（キャリアデザイン力）を養うことを目的とする。その一環として開設する「専門とキャリアA」は、自分にとっての学問の意味を考えさせ、とりわけ専門の内容と将来の職業や進路との関連性などを考えさせることを目的とする。具体的には、自己分析の結果を踏まえ、学科での専門分野の学びの目標設定をすることを通して、キャリアデザイン力を高めることに重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	専門とキャリアB	本学の共通科目「キャリアデザイン」は、将来教養ある市民として自己の社会的責任を果たしていくために必要となる、基礎的な知識や能力（キャリアデザイン力）を養うことを目的とする。その一環として開設する「専門とキャリアB」は、将来の職業や進路にどのようなものがあり、専門の内容がそれらとどういったつながりがあるかを考察することにより、キャリアデザイン力を高める。具体的には、適性についての自己分析をもとに職種や業種を考え、専門科目との結びつきを考えること、インターンシップについて学ぶことに重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	仕事と社会	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「仕事と社会」は、就職活動を進めるための本格的な準備指導を目的とする科目である。具体的には就職活動に必要な実践的スキルである、自己PR、面接対応、ビジネスマナーおよび社会人基礎力等の修得を図り、仕事の適切な選択と早期離職の原因等の理解を深める。また、昨今の国内外の経済や社会の状況を理解しつつ、就職活動に向かう意欲を高め、心身のコントロール法を通じてあきらめない力の養成等の準備対策に重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	キャリア研修 I	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「キャリア研修 I」は、大学生活の早期に実社会体験をすることにより、社会性を高めるとともに広い視野を身につけ、自己と社会との関連について考察を深めることを目的とする。授業では、グループワークを中心として、ビジネスマナーや社会での働き方についての事前研修を受けた上で、大学が事前調査をふまえて精選した研修先で研修を実施し、事後研修と成果発表会を通し、自身の体験を振り返り、学びを深める。	

共通科目	キャリアデザイン	キャリア研修Ⅱ	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「キャリア研修Ⅱ」は、「キャリア研修Ⅰ」による学びをふまえ、より高度な内容の実践的プログラムとし、実社会における仕事について理解を深めるとともに、業種や職種を理解することで、自己の進路を選択する際に参考となる知識を得ることを目的とし、実習前に研修の目標を確認した後、実地研修にて実践的な業務を体験する。研修後は実体験によって得た学びを報告書にまとめることで振り返りを行い、学生自身の深い学びにつなげる。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会A（家族とこころ）	近年、家族を取り巻く社会的環境は大きく変化してきており、それに伴い様々な問題が家族内では起きている。本講義ではまず、日本社会における家族の変遷について解説し、次に家族が形成される過程から高齢期の家族に至るまでの特徴や問題点を生涯発達の観点から検討していく。例えば、初めて親になる意識やその意識の男女差、現代の母親の心理的特徴、虐待、きょうだい関係、高齢者を介護をする家族などについて取り上げる。またこれまであまり取り上げられてこなかった父親の問題を心理学的に解説する（例：父親が子どもの発達に与える影響・父親自身のメンタルヘルス）。こうした内容を講義する中で、家族にかかわる心理学的問題について深く思考できる力を養い、実際の家庭生活や心理臨床場面で活かすことができるようになることをめざしていく。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会B（多様性・文化とこころ）	近年、グローバル化が加速し、現代社会では多様性と複雑性が増してきているが、身近な日常生活の中にも多様な差異は存在している。本授業では、文化が個人の心理や行動にどのように影響するか、異文化接触のメカニズムについて探るとともに、日本国内および海外における異文化接触により起こりうる事象や問題について関連する心理学の諸理論に基づいて学ぶことを目標とする。具体的には、カルチャーショック、異文化適応、文化と価値観、葛藤と解決方略、ステレオタイプ・偏見・差別の形成と低減、子どもの異文化体験、異文化間コミュニケーション、ストレスと対処、多文化間カウンセリング、援助活動とネットワークづくり、コミュニティ心理学的予防的支援などの多様なトピックについて幅広く取り上げ、具体例を挙げながら問題解決について検討していくことを目指す。文化的差異を社会の多様性として捉え、多様性の尊重とはどのようなことか議論を深めていく。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会C（消費者とこころ）	消費社会という言葉を知っているだろうか。私たちは自らを「賢い消費者」と呼べるだろうか。本科目では消費者の購買行動、意思決定にかかわる社会心理学的メカニズムとマーケティングの基礎概念を理解する。講義と事例紹介を行いながら、① 消費者行動を心理学的観点から理解する、② マーケティングの基本的な考え方を理解する、③ 身近なマーケティングを理解する。心理学と経済との接点を学び考察することで、心理学が社会に役立てられていることを理解する。特に、消費者行動の定義と目的、消費者と生産者の関係の歴史、消費者行動の心理学、消費者行動とマーケティングを学ぶ。これらの学びを通して消費社会に関する問題解決の思考力を高めていく。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会D（人間関係とこころ）	社会生活の基盤には人間関係があり、円滑な人間関係の構築が社会で求められる。本講義では、人間関係に関する知識の学習だけではなく、円滑な人間関係を築く実践的な力を獲得するために、日常生活場面や現実起こりうる状況を参考に、「人間関係を知る」、「他者との関わり方」、「集団での人間関係」という3つのテーマを設定し、課題解決型講義を行う。まず、「人間関係を知る」では、現代社会における人間関係の諸問題について心理学的知見を説明する。「他者との関わり方」では、友人関係や恋愛関係など身近な人間関係を説明し、ソーシャルスキルトレーニングを用いて他者に共感する能力を育成する。「集団での人間関係」では、社会生活や集団生活を想定したグループワークを通して、リーダーシップやチームワーク能力を育成する。以上の講義を通して、学生は日常生活で実践する力や他者に共感する力を培い、心理学を社会生活に還元することができる。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会E（子ども相談入門）	本科目では、子どもの心を理解し、将来的に支援に結び付けられる力を養うことを目的とする。私達も、もともとは子ども時代を過ごしてきた先輩である。だからといって、現代の複雑な社会を生きる子ども達の心を理解することは決して簡単なことではない。人が、自分とは何かも異なる他者の心を理解し、支援していくということには、喜びとともに、苦しみや痛みを伴う。このような精細な子ども達の心と心の問題を理解するために、それをイメージしやすいアニメーションや絵本、詩、歌など身近な素材や教材を用いながら検討する。そして、毎回、検討課題を考えることを通して、子どもの心に共感し、支援の実践に結び付けていくための演習を行う。
専門教育科目	心理学導入科目	心理学と社会F（こころの予防教育）	本科目では、教育、産業、コミュニティなどで実施されているこころの予防教育について学び、その理論的背景、実践方法を体験的に学ぶ。学習目標として、こころの予防教育の対象となる疾患の多様性を把握すること、こころの予防教育を行う領域や現場における実施可能性とニーズを的確に思考すること、こころの予防教育を実践するための背景理論と実践上の工夫を習得することを目指す。具体的には、World Health Organizationが推奨している教育現場のプログラムであるフレンズ・プログラムや米国で実施されている自傷行為予防プログラム

			ラム、英国にて開発されたインターネットを用いた青年期メンタルヘルスプログラム、コミュニティで実施されている睡眠改善プログラムや自尊心上のためのプログラム、日本で開発された産業領域での電話によるうつ病予防プログラム等を紹介する。
専門教育科目	心理学基礎科目	心理学概論	心理学は、「心を科学的に捉える学問」として成立して間もない学問であるが、幅広い心理学の諸分野では異なる専門性が必要とされる。心理学概論では、関連する諸科学との相違から心理学がどのように成立し展開したかを理解することに加え、広範な心理学の諸分野における基礎知識を獲得するために、「心理学の成り立ち」と「心の基本的な仕組みと働き」を示す。まず、「心理学の成り立ち」では、哲学や医学、生物学など関連する諸科学における心の捉え方を理解し、科学的な心理学の成立からその後の展開を述べ、現在の認知科学や脳科学と心理学との関連について比較することで、心理学の歴史や意義を説明できることを目標とする。次に、「心の基本的な仕組みと働き」では、人間の心や行動について科学的な視点から理解し、広範な心理学の諸分野の基礎知識を獲得することを目標とする。以上の講義を通して、心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。
専門教育科目	心理学基礎科目	臨床心理学概論	本科目では、臨床心理学の成り立ちおよび代表的な理論について紹介し、臨床心理学に対する基礎的かつ全般的な理解を深める。そのための学習目標として、代表的な臨床心理学の理論を理解すること、臨床心理学の基礎あるいは根拠となっている心理学の諸領域について理解すること、日常生活または社会における諸問題を臨床心理学の視点から考察することを設定する。具体的には精神分析学と力動的心理学法、行動理論と行動療法、人間性心理学と人間中心アプローチ、認知理論と認知療法、といった主要な心理療法の理論とその基盤となる理論を紹介する。また、諸理論に基づく臨床心理アセスメントのための方法（面接法、知能検査・発達検査・認知機能検査、性格検査）を紹介し、Bio-Psychosocialモデルに基づくケースフォーミュレーションと精神病理学を学ぶ。理論とともに具体的な実践方法を教示することで臨床心理学に基づく思考力に基づく実践を可能にする。
専門教育科目	心理学基礎科目	心理学統計法	心理統計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、心理学で用いられるさまざまな統計手法を実データに適用できるようになることを学習目標とする。はじめに、代表値や散布度、相関や回帰などの記述統計に関する講義を実施する。その上で、確率モデルの考え方を導入し、推定と検定の手続きの理解へとつなげる。t検定や分散分析、カイ2乗検定などの分析手法の特徴と計算の方法について学習し、統計ソフトの基本的操作や出力の読み方について理解する。講義では計算機を使って実際に演算し、1つ1つの分析プロセスを体験的に理解できるように授業展開を工夫する。受講者は、一連の講義を通じて、自ら研究計画を立案し、収集したデータを分析する際に、どのような統計手法を用いることが適切なかが判断できるようになることが期待される。
専門教育科目	心理学基礎科目	心理学研究法	本授業では、心の働きや行動を科学的に検証する手段として用いられる代表的な研究法（実験法、質問紙法、観察法、面接法など）について学習し、その内容や、一連の手続きを理解できるようになることを目指す。また、心理学を学ぶ上で不可欠となる統計的検定の基本的な考え方や、研究を行う上で忘れてはならない倫理的配慮、研究で起こりうる倫理的問題についても学習する。到達目標は以下の4つとする。1) 心理学における実証的研究法(量的)の名称を2つ以上挙げ、それぞれの内容や手続きについて説明できる。2) 心理学における実証的研究法(質的)の名称を2つ以上挙げ、それぞれの内容や手続きについて説明できる。3) データを用いた実証的な思考方法を身につける。4) 研究倫理を理解し、正しい倫理観のもとに研究を行う心構え、態度を身につける。
専門教育科目	心理学基礎科目	心理学実験	心理学的課題（テーマ）について科学的に研究する方法を学ぶために、自ら実験を計画・立案し、実験や演習を通じてデータを収集し、統計に関する基礎的な知識にもとづき分析を行い、その結果について考察をするという心理学研究の基本を体験する。受講者はグループに分かれ、学習心理学、認知心理学、社会心理学など複数の心理学領域について実験や演習を順次体験して行き、実験ごとにレポートを作成する。自らが心理学実験を行うことにより、心理学実験の基礎的技術、実験データに対する統計的分析方法や考察の仕方などについて理解を深めるとともに、それらの結果をレポートとしてまとめることにより、座学では得られない発見や気づきを大切にしながら、科学論文の記載の方法を習得することを目標とする。
専門教育科目	心理学発展科目 基本科目	知覚・認知心理学	認知心理学とは、知覚や記憶、学習、言語理解などの知的な働きについて心理学的に研究する領域である。本授業では、学生たちが、認知心理学の様々な研究方法、これまでの研究内容などを理解すること、そして同時に、人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害を理解することを目指す。これらを学んだ上で、人が外界をどのようにとらえ、把握し、行動につなげているのかについて思考する力を養う。具体的には、知覚について、感覚

			の種類や構造、視覚や聴覚、体性感覚といった感覚の基礎的な知識、及び感覚や知覚が障害された際に生じる問題を学ぶ。さらに、記憶のメカニズムや注意のメカニズム、人が問題解決をする際の思考について、そして認知や思考が障害された際の問題について学ぶ。このように人の認知活動、高次精神活動を理解することにより、自らの日常生活における認知心理学的側面に気付くことができる。	
専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	学習・言語心理学	人が持つ多様な心の作用は、実は非常に古くから生きている生物と同じ脳の働きによって機能し得るものであったり、あるいは当たり前のこととして捉えていた日常的な事象は脳がある目的のもとに勝手に作り出した錯覚だったりする。本講では、主に学習心理学的観点からこうした独創的な基礎的研究成果を学ぶことを通して、「心」という現象の理解を深めていく。また、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序を学び、理解することを目指す。実際の授業では、行動の測定と実験デザインといった研究手法から、レスポネン条件づけやオペラント条件づけ、強化随伴性といった学習心理学的内容、および言語発達の社会的基盤や語用論的能力の発達といった言語心理学的内容について、さまざまな視覚聴覚体験および講義を通して学ぶことによって、心理学的な観点から心身の諸機能について理解すること、言語習得における機序を理解することを目指す。
専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	感情・人格心理学	心理学の基礎領域の1つである、感情・人格心理学の知識を身に着けることを目的とする。はじめに、感情に関する理論及び感情喚起の機序について体系的に学ぶ。感情の定義や生物学的な基盤、感情の発生過程と測定方法について概説する。次に、感情が行動に及ぼす影響について学ぶ。適応的な行動を導くための感情制御の方法や共感性の促進、援助行動の発現や視点取得の過程などについて講義を行う。さらに、人格の定義や主要な人格理論、人格の形成・変容の過程や人格の障害などについて学習する。類型論・特性論に代表される人格の理解や記述の方法、遺伝と環境の相互作用、個人差が生じる背景について理解を深めることは、人間を多面的にとらえ、統合的に理解するための足がかりとなる。講義で得た知識をベースに、感情や人格という人間の目に見えない内的過程を概念化し、適切に測定する中で、科学的に扱う方法を身に着けることが到達目標である。
専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	神経・生理心理学	本講では、生理心理学を中心とする心理学の独創的な研究についてさまざまな視覚聴覚体験および講義を通して学ぶことによって、諸研究手法および理論等を理解し、心理学的な観点から心身の諸機能について理解することを目指す。具体的には、中枢神経や自律神経等の脳神経系の解剖、ニューロンやシナプスと言った神経系の情報伝達、運動性言語野や感覚性言語野といった大脳皮質の機能局在などの脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、視覚や聴覚と脳神経系、運動や記憶、感情と脳神経系といった脳と認知領域の関係、および記憶障害や失語、失行など高次脳機能障害や、依存など精神疾患と脳神経系の関係などを学ぶ。こうした、神経・生理学的な側面を学ぶことで、人間の「こころ」の複雑さを高い共感性に基づいて多面的に捉えられるようになることが可能になる。
専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	社会・集団・家族心理学	社会心理学とは、他者との関わりの中で生きる人の心や行動について科学的に研究する学問である。人の心や行動を考える上では社会や他者の存在を度外視することは困難であることから、その研究対象は多岐にわたる。本授業では特に、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度と行動、家族・集団・文化が個人に及ぼす影響に焦点を当て、関連する主要な理論について学ぶ。また、それぞれのテーマに関連したワークやグループでの議論を通じて、授業で得られた知識を整理し、日常生活に応用する力を身につけることを目指す。到達目標は以下の4点である。1)対人関係並びに集団における人の意識、行動についての心の過程について理解する。2)人の態度及び行動について理解する。3)家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解する。4)授業内で取り上げられた理論を1つ以上挙げ、日常生活にどのように応用できるかを説明できる。
専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	発達心理学	本講義の目的は、人間の身体的および心理的発達を乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期そして高齢期に至るまでの生涯発達の視点から理解できるようにすることである。そのためまず、人間の発達に関する基礎的理論や考え方の変遷について解説する。とくにピアジェに代表される認知機能の発達理論やエリクソンの心理社会的発達理論などについては詳述する。さらに子どもと他者（例：母親・父親）との愛着理論（例：ボウルビィ）および友人関係の発達過程について言及する。また、近年、増加傾向にある発達障害についても取り上げる。自閉症スペクトラムやAD/HDおよび学習障害といった発達障害に関する基礎的知識や考え方を説明したうえで、各障害への具体的支援方法について解説する。以上の授業内容を学ぶことで、乳幼児から高齢者までの理解を深め、発達の基礎的知識を他の領域の心理学に応用できるようにしていく
			障害者・障害児心理学	この授業では、障害をもって暮らす人々の自己実現とQOLの向上に受けて、心理学的立場から支援を実施する立場として必要な知識と基本

専門教育科目	心理学発展科目	基本科目	<p>的な支援方法について理解することを目的とする。そのため授業の中では、国際疾病分類（ICD）や精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM）を基準に、身体障害、知的障害、発達障害、精神障害に関する定義や疾患特性について学修をしていく。また、生物・心理・社会モデルに立ちながら、障害の生理的メカニズムや認知的特性などについて、それぞれの疾患に沿って理解する。さらに、障害者・障害児自身の自己理解や障害の自己受容などについても取り上げる。その上で、医療、教育、福祉等のそれぞれの分野における心理社会的課題、関連法案や各種のサービス、あるいは共同して進めるための関係業種等について紹介しながら、必要な支援について取り上げる。</p>
専門教育科目	心理学発展科目	実践科目	<p>健康・医療心理学</p> <p>以下の項目について学び、将来心理職として活動する際に十分な理解が得られることを目標とする。① ストレスと心身の疾病との関係：ストレスの心理とそのアセスメントについて学び、ストレスが人の身体に与える影響について理解する。そして心の健康を保つために必要なコーピング・スキルなどストレス・マネジメントについての知識を深める。② 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援：保健・医療における法律や制度、倫理について学ぶ。精神科等各診療科における心理社会的課題について理解し、多職種協働による支援の方法について学ぶ。③ 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援：健康支援活動などさまざまな保健活動について学ぶ。自殺予防活動は特に重要課題である。④ 災害時等に必要な心理に関する支援：心理的ファースト・エイド、外傷性ストレス障害やレジリエンスについての理解を深め、支援者への支援について考える。</p>
専門教育科目	心理学発展科目	実践科目	<p>福祉心理学</p> <p>将来、福祉領域の心理職として活動する際に必要な基本的な知識と支援方法、多職種連携について理解が得られることを目標とする。① 福祉現場において生じる問題及びその背景が個人の心理的問題だけでなく社会的（差別、排除）、経済的な要因（貧困）も含めて多岐にわたることを理解する、② 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援に関連する法律や制度を学び、具体的な対人援助の方法を学ぶ。どのような福祉現場があるのかを理解し、その福祉現場ごとの心理社会的課題とその解決方法を理解する。③ 虐待についての基本的知識として特に児童虐待、障害者虐待、高齢者虐待、DVなどの内容や実態、法律や制度、具体的な支援について学ぶ。これらの学びを通して福祉領域で支援の対象となる人たちの多様性を理解し、支援者としての共感力と問題解決の思考力を高めていく。</p>
専門教育科目	心理学発展科目	実践科目	<p>教育・学校心理学</p> <p>児童生徒の成長・発達、およびそれを支える学校状況を援助することを目的に、教育領域のカウンセリングや学校心理学の基礎知識を学び、「個」と「環境」に働きかける包括的スクールカウンセリング活動の理論と実際を学ぶ。心理教育的援助サービスには3段階あり、すべての子どもを対象とする一次的援助（授業や行事、学級活動等）から、リスクを抱え始めた一部の子どもへの二次的援助（登校しぶり、不応症等への早期対応）、援助ニーズの高い特定の子どもへの三次的援助（治療的対応や他機関連携）まで幅広く行われる。授業では、教育に関連する主な法律・「チーム学校」における多職種協働や連携・教育行政の動向を理解すること、不登校・いじめ・暴力行為・特別支援教育（発達障がい）・学校危機等の諸課題への基礎的理解と対応指針を学ぶこと、子どもたちの内外の資源や学校の力を活かした解決志向の対応を、演習を含めて学ぶことが含まれる。</p>
専門教育科目	心理学発展科目	実践科目	<p>司法・犯罪心理学</p> <p>本授業では、受講した学生たちが、「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識」「司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援」を学び、理解することを目指す。特に司法・犯罪は法律と密接にかかわる領域であり、制度や法律を学ぶことが必要である。従って、刑法や民事訴訟法、医療観察法、少年法、児童虐待防止法、犯罪被害者等基本法など関連する法律を網羅的に学ぶ。同時に、この領域は社会とも密接にかかわる領域である。我が国の犯罪発生状況を把握し、犯罪発生メカニズムを理解した上で、様々な罪種について加害と被害両側面から理解することを促す。具体的には、実際の事件や事例を交えながら、犯罪や非行の原因と支援、犯罪被害への支援、家事事件への対応、必要なアセスメントと心理学的援助を網羅して学んでいく。そして、座学で理解するだけではなく、ニュースで事件に触れた際に、その事件にまつわる制度や加害者および被害者について考える思考力を身に付ける。</p>
専門教育科目	心理学発展科目	実践科目	<p>産業・組織心理学</p> <p>産業・組織心理学は、産業や、組織の中での人々の意識や態度、行動などを研究する学問領域である。人生100年と言われるこれからの時代、人が生涯で働くことにかかる時間は長くなることが予想されている。組織をつくり、動かしている心理や行動に対する理解があれば、人々の職業生活は、より豊かなものになると考えられる。また、それらへの理解を深めることは、心と身体の健康を守りながら働く方法を見つけることにもつながるだろう。本授業では受講生が産業・組織に生きる上で役立つ知識を身につけることを目的として、組織における人の行動と、職場における問題に対して必要な心理に関する支援を中心に学習する。到達目標は、以下の2点である。1)組織における人の行動について理解する。2)職場における問題（キャリア形成に関するを含む）に対して必要な心理に関する支援について理解する。</p>

専門教育科目	心理学発展科目	関連科目	精神疾患とその治療	<p>本授業のねらいは、カウンセリングや臨床心理学を学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得し、精神医学の考え方・生物学的基礎・おもな精神障害・治療法などを体系的に理解することである。学生の到達学習目標は、1代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できること、2向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できること、3どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できることである。15回の講義で、認知症、物質関連障害、統合失調症、うつ病性障害と双極性障害・強迫性障害、PTSD、解離性障害、身体症状症、パーソナリティ障害、てんかん、神経発達障害、精神科治療、社会と精神医学などについて説明する。</p>	
専門教育科目	心理学発展科目	関連科目	人体の構造と機能及び疾病	<p>本講義の目的は、心身機能と身体構造および様々な疾病や障害およびがん・難病等の心理に関する支援が必要なおもな疾病についての理解を深めることである。身体構造と機能については、循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・脳神経系・筋骨格系・血液系・免疫系・内分泌系などの解剖や機能、さらに各臓器に関連するおもな身体疾患について学習する。また公衆衛生学や生活習慣病の知識を得る。身体疾患については、特に心理的要因の関連する心身症や心理的対応を求められる癌および難病について重点的に学習する。また身体症状と精神症状を同時に呈する疾患として、認知症・パーキンソン病・てんかん・内分泌疾患・自己免疫性疾患・うつ病・不安障害などを学習する。</p>	
専門教育科目	心理学発展科目	関連科目	公認心理師の職責	<p>公認心理師は国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とした国家資格である。それは個人の「心」という私的な領域に踏み込むものであるため、公認心理師を目指すものは、専門家としての義務や責務を十分に理解することが必要になる。従って本授業では、実際に公認心理師として現場に出る際に生じる様々な問題について、公認心理師の法的義務や守秘義務、チーム支援について理解した上で業務を遂行できるようになることを目標とする。内容としては、「公認心理師の役割」「公認心理師の法的義務及び倫理」「心理に関する支援を要する者等の安全の確保」「情報の適切な取扱い」「保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務」「自己課題発見・解決能力」「生涯学習への準備」「多職種連携及び地域連携」について、それぞれ1回～3回の授業を費やす。座学だけではなく、具体的な事例を提示した上で事例に沿った問題を提示し、少人数のグループに分け、公認心理師の法的義務、守秘義務や情報の取り扱い、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、多職種連携について、どのように生じている問題に対処していくか、ディスカッションを行って授業を進める。</p>	
専門教育科目	心理学発展科目	関連科目	関係行政論	<p>実際に心理学を社会の中の実践で生かす際には、関係する法律や制度、関連領域職種の役割を理解していなければならない。これは、心理専門職を目指していない学生にとっても、自分たちが学んでいることをどのように社会に生かすかを考える上で必要なことである。本科目では、受講した学生たちが「保健医療分野に関する制度」「福祉分野に関する制度」「教育分野に関する制度」「司法・犯罪分野に関する制度」「産業・労働分野に関する制度」を網羅的に学び、理解することを目指す。具体的には、法律に関しては、日本国憲法と法体系から始まり、保健医療分野である医師法や精神保健福祉法、心神喪失者棟医療観察法、地域保健法、福祉分野である社会福祉法、児童福祉法、児童虐待防止法、障害者総合支援法、教育分野である教育基本法、学校保健安全法、いじめ防止対策推進法、司法・犯罪分野である刑法、少年法、犯罪被害者等基本法、産業・労働分野である労働基準法、労働安全衛生法等を学ぶ。また関連領域職種である医師や看護師、精神保健福祉士、社会福祉士、教員、警察官、家庭裁判所調査官、労働基準監督官などについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 庄司正実／3回) 保健医療分野の法律や制度</p> <p>(12 宇野耕司／3回) 福祉分野の法律や制度</p> <p>(9 杉本希映／3回) 教育分野の法律や制度</p> <p>(13 齋藤(水野) 梓／3回) 司法・犯罪分野の法律や制度</p> <p>(15 大嶋玲未／3回) 産業・労働分野の法律や制度</p>	オムニバス方式
			家族心理学特講A (子どもの心理療法)	<p>子どものカウンセリング・心理療は、特に幼児期、児童期においては「遊び」を通したプレイセラピーという方法が用いられることが多い。プレイセラピーは、大人のカウンセリング・心理療法とは大き</p>	

専門教育科目	心理学専修科目		く異なり、さまざまな特別な配慮と工夫が求められる。また、問題意識がなく来談意欲に乏しいなど子ども特有の問題が存在する。本科目では、子ども達に行うプレイセラピーの技法やプロセス、このような問題への対処方法の詳細について講義を通して学びながら、レジメによる演習を通して、現代社会における子ども達の問題の背景にあるものを「思考」するとともに、子どもの気持ちに寄り添い「共感」できる能力と、実際に子どもとのかかわりに活かすことのできる「実践力」と対処能力を養うことを目的とする。	
専門教育科目	心理学専修科目	家族心理学特講B（芸術療法）	芸術療法とは、絵画や描画、粘土や陶芸などの造形、コラージュ、箱庭、音楽、俳句や短歌などの詩歌、心理劇、ダンスなどの表現活動を通して行う心理療法であり、今日、治療困難な疾患への適応も含めて、さまざまな治療技法が考案されている。特に、絵画療法是芸術療法の中心的技法であり、治療者は描画媒体を用いて、クライアントの自己表現をうながすために積極的な関わりや援助を行う。また、絵画療法是治療者とクライアントの双方が描画表現を通して、相手に問いかけ語りかける相互対話的な関わりでもある。絵画療法においては、描画表現を行うことになかにも、すでに癒すことが含まれており、描画を読み解くことなかにも、クライアントの癒しにつながるものがある。本講座では、芸術療法のなかで最もよく使われている絵画療法について演習を通して学びその理解を深め技術の習得を図ると共に、さまざまな状態のクライアントの絵画表現について学ぶ。	
専門教育科目	心理学専修科目	対人関係心理学特講A（パーソナリティと心理学）	心理学において「パーソナリティ」および「自我」「自己」の問題は非常に重要なテーマの1つである。本講義ではパーソナリティについて、人格心理学・社会心理学・発達心理学の側面から検討していく。講義の前半では、パーソナリティの定義や日本人のパーソナリティの特徴などについて解説していく。とくに「育児は人を形成する」という観点から親の養育態度がパーソナリティの形成に与える影響やパーソナリティの生涯にわたっての変化について考察する。講義後半ではパーソナリティに関する最近の心理学的研究動向を紹介し、学習を深めて行く。自尊感情、仮想的有能感さらにはレジリエンスなどについても紹介する予定である。本講義をつうじて、対人理解を深めるための思考力を養い、共感的に他者とかわることの大切さを学べるように指導していく。	
専門教育科目	心理学専修科目	対人関係心理学特講B（ストレスと行動変容）	この授業では、心理学的な立場からストレスが我々の生活に与える影響について取り上げる。授業の中では、キャノンやセリエなどが提唱したストレスに関する理論を紹介しながら、ストレスやストレスによる生理、心理的な反応について概説をする。また、ストレスによる影響を媒介したり、干渉するような認知的、社会的な要因についても取り上げ、ストレス過多により引き起こされる心身等の疾患や、災害時などの突然の大きなストレスに対する生理、心理的な影響などについても学習する。同時に、ストレス理論をもとに、よりよく健康的な生活を営むためにどのような暮らしをすればいいのか、あるいは生活習慣をどのように改善をしていくことができるのか、について行動科学的な立場から、様々な技法やスキルを紹介する。また、この過程では受講生が自分自身を題材にし、ストレスをモニターしたり、生活習慣改善をはかるなど、思考力と実践力を養っていく。	
専門教育科目	心理学専修科目	多様性心理学特講A（コミュニティ心理学）	現代の社会では、災害や広域犯罪、学校での緊急対応、企業での自殺対応等、様々な問題が生じている。それらに対し、個人レベルへの介入だけではなく、個人、集団、システム、システム間と、様々なコミュニティレベルへの介入が求められる。本講義では、伝統的な心理支援（カウンセリング、心理療法）の効用を認めた上で、その限界も踏まえ、現代社会に相応しい形で多様なレベルへの介入を行うための、コミュニティ心理学の考え方と実践についての基本的な理解を得る。すなわち、コミュニティ心理学が大切にしている考え方（発想、価値観）や目標を確認し、介入方法、援助技法などを理解することにより、「コミュニティ心理学的な新しい心理援助」の「理論」と「現場での実践」すなわちシステムアプローチとしての「心理支援の全体像」を理解する。授業では、社会問題や身近なできごとについて行う個人ワークやグループワークなども取り入れ、実践力や共感力を養い、課題に取り組んでいく姿勢を身に着ける。	
専門教育科目	心理学専修科目	多様性心理学特講B（異文化・多様性カウンセリング）	私たちは社会化の過程で自己の中に多様性や価値観を取り入れながら成長している。 多文化間カウンセリングでは、心理援助者は自分の持っている価値観や多様性に気づき、相手の立場になって相手の価値観や多様性を理解し、共感しながら援助していくことが重要である。本授業では、文化移行がどのように個人の心理に影響するか、文化接触と生涯発達の観点から、多様な母語、年代、文化的背景を持つ人々の持つ価値観、悩みや課題、危機と解決の可能性について検討することを目標とする。彼らを取り巻く環境（家庭、学校現場や地域社会等）で生じた困難な現状を共感的に理解し、コミュニティ心理学の視点から、援助活動、コンサルテーション、コンフリクト解決のあり方、支援体制作り等を検討する。また、多文化共生社会におけるマジョリティ側の偏見の形成と低減のための教育にも触れ、多様性の理解を促進させる担い手としての役割についても考えていく。	

専門教育科目	心理学専修科目	福祉心理学特講A (成人と高齢者の心理学)	人生100年時代と言われる昨今、一生における成年期から老年期の占める割合が長くなりつつある。大人として家庭、職場、地域などで責任をもつことを求められながら社会の一員となっていく成年期や、身体的、知的変化が生じ、人生の円熟期とされる老年期は、若い頃とどのような違いがあり、心理的悩みや課題があるのだろうか。この授業では、成年期や老年期にある人々を取り巻く社会的状況や身体的側面の変化を踏まえた上で、その年代の人々の心理的側面を理解することを目的とする。誰もが避けられない加齢についての理解を深め、自分の父母や祖父母にあたる年代の人々に共感するとともに、自分のキャリアデザイン、人生設計などに反映させて考えることを目指す。さらに、成年期や老年期にある人々とどのように関わっていくことが必要なのかについて考え、彼らの支援や共生ができることを目標とする。	
専門教育科目	心理学専修科目	福祉心理学特講B (児童養護)	児童養護を対象とすることで子どもと家族をとりまく心理社会的問題について理解を深める。特に被虐待児の心理や虐待による影響、被虐待児やその家族への支援方法についてより専門的な内容を学ぶ。そして、心理学的支援や心理療法といった個別支援のアプローチだけでなく、関連する法律や制度も学ぶ。地域における予防的取り組み、児童養護施設での実践などを学び、児童とその家族をどのように支援するかを考察し、将来、子ども家庭福祉領域の心理職として活動する際に必要なより高度な専門的な知識と支援方法、多職種連携について理解を得ることを目標とする。これらの学びを通して子ども家庭福祉領域で支援の対象となる人たちの多様性を理解し、支援者としての共感力と問題解決の思考力を高めていく。	
専門教育科目	心理学専修科目	学校心理学特講A (ピア・サポートA)	ピアサポート (同輩支援) とは、年齢や立場の近い者どうしがお互いを助け合う活動、つまり、仲間の仲間による支援活動を指す。この授業は、実際に新宿区立小中学校でメンタルサポート・ボランティア (児童生徒の学校生活を心理面への配慮を行いながら支援するボランティア) として1年間活動することを通して、子どもたちの学びの現場で役に立つことは何かを考え、広い意味でのピアサポートを理論と体験学習から学ぶことをねらいとする。春学期のこの授業においては、学校におけるボランティア活動について、学校文化と心理的文化について、学校というコミュニティへの参入の仕方についての基礎知識を学び、児童生徒のリソース (内外の資源) や強み・よいところの発見と理解、傾聴する姿勢、コミュニケーション・スキルの獲得を授業でのロールプレイによって実際のボランティア活動から習得する。	
専門教育科目	心理学専修科目	学校心理学特講B (ピア・サポートB)	ピアサポート (同輩支援) とは、年齢や立場の近い者どうしがお互いを助け合う活動、つまり、仲間の仲間による支援活動を指す。この授業は、実際に新宿区立小中学校でメンタルサポート・ボランティア (児童生徒の学校生活を心理面への配慮を行いながら支援するボランティア) として1年間活動することを通して、子どもたちの学びの現場で役に立つことは何かを考え、広い意味でのピアサポートを理論と体験学習から学ぶことをねらいとする。秋学期のこの授業においては、実際のボランティア活動を通して見えてきた課題に対処するため、事例理解と問題解決への発想と取り組みをグループディスカッションにより検討するとともに、学校における適切な守秘や教職員やスクールカウンセラーとの連携についての実践的理解を深める。	
専門教育科目	心理学専修科目	学校心理学特講C (学校臨床心理学)	学校臨床を行っていくためには、学校教育についての知識が不可欠である。そのためこの講義では、学校心理学だけでなく、教育現場で行われている生徒指導・教育相談を学ぶことで、学校臨床の基礎知識の習得を目指す。まず生徒指導・教育相談を概観し、必要な発達心理学、対人心理学を学ぶ。ついで、心理アセスメント、予防としての心理教育、チーム支援の基礎を学ぶ。そのうえで、学校現場において問題となっている、いじめ、不登校、反社会的行動、発達障害・精神障害などについての基礎知識と具体的な支援方法を学ぶ。講義だけではなく、実践的なスキルの演習、模擬事例をチームで解決するグループワークも行う。心理臨床家としてスクールカウンセラーを目指す学生だけでなく、児童養護、放課後等デイサービス、発達支援など、子どもとのかかわるうえで学校との連携は必須である。そのために必要な知識とスキルの習得を目的とする。	
専門教育科目	心理学専修科目	医療健康心理学特講A (力動的心理療法)	力動的心理療法は、フロイトによって創始された精神分析を基盤にして、そこからさまざまに発展した心理療法の治療技法と治療理論である。力動的心理療法は、クライエントの抱えている心理的問題や症状などに対する精神分析的知見に基づいた評価方法や心理的援助方法を持っており、これらの方法を学ぶことは心理療法を学ぶためには基本的なものである。力動的心理療法では、治療者とクライエントの双方が相手に問いかけ語りかけ、その問いにお互いに応えていく二者の心理療法的対話関係を育むことが重要となる。本講座では、力動的心理療法について、クライエントの言葉をどのように受けとめ理解するのかということ、そして受けとめたことをどのように伝え返すのかという、主に対象関係論的な観点を中心に、治療関係や治療技法を学ぶと共に、人間の心の内的な情緒発達について、心の構造や働きとその病理に関する普遍的で幅広い知見について学ぶ。	

専門教育科目	心理学専修科目	医療健康心理学特講B (認知行動療法)	認知行動療法は、主として学習理論と認知理論を基礎に体系化された心理療法であり、客観的に効果が実証できることを重視する立場を取る。本講義では、認知行動療法の基礎的な考え方を習得し、さまざまな状態像のクライアントに対し、効果的な介入を行う方法について学ぶことを目的とする。はじめに、心理臨床の領域における認知行動療法の位置づけや歴史的な流れについて説明する。次に、学習理論や感情、身体、行動、認知のつながりなど、認知行動療法を支える基礎的な考え方について学習する。その後、エクスポージャーや認知再構成法など、個別の治療技法を取りあげ、導入の際の留意点や治療の進め方について講義する。最後に各論として、さまざまな対象や問題に対する認知行動療法の適用例を紹介する。講義内では、ワークや演習を通じて、学生が自ら認知行動療法の考え方を適用し、課題解決できるようになることを目標とする。	
専門教育科目	心理学専修科目	医療健康心理学特講C (スポーツ心理学)	今日、スポーツの世界でも心理学のニーズは高まっている。この授業の目的は、スポーツ選手のこころの問題を総合的に理解することである。具体的には、トップアスリート及び一般スポーツ経験者の映像資料や事例を題材として、それを心理学的に検討することにより、スポーツに関する心理学的知識を深めるとともに、メンタルトレーニング等のスポーツ心理学の技法を体験的に理解することを目標とする。具体的には、スポーツとパーソナリティ、ストレス理論や「あたり」についてなどスポーツにおけるメンタル・トレーニング、スポーツのコーチングといった、スポーツ経験者個人に対する心理学を応用した介入から、スポーツチームのアセスメントといったスポーツチームに対する心理支援に至るまで、スポーツにまつわる様々な実践的心理学を学んでいく。映像資料や事例を題材にすることで、スポーツ選手、経験者の心理に対する共感力を高め、心理学を社会で生かす実践力を身に着ける。	
専門教育科目	心理学専修科目	医療健康心理学特講D (身体疾患と心理)	誰しも一生のうち、自らあるいは家族や親しい人の病気と無縁ということはない。重篤な病に向き合い、慢性のあるいは進行性の病を抱えて生きていく際には多くの困難に直面し、患者本人だけでなく、家族や周囲の親しい人々も強く影響を受けて生活していくことになる。患者として病とどのように向き合うか、家族としてあるいは友人として患者の心理を理解し、患者をどのように支えるか、さらに身体疾患の医療に携わる心理専門職として患者、家族等をどのように支援するかについて考察し、共感力、思考力、実践力を高めることを目標とする。身体疾患における医療現場では、心理専門職としての活動領域やニーズが広がっている。がん、糖尿病、脳血管疾患、小児医療、周産期医療、生殖医療、遺伝医療、HIV/AIDS等の疾患、さらに人生の最終段階における医療など、さまざまな医療現場における心理専門職の多職種連携における活動についての理解を深める。	
専門教育科目	心理学専修科目	司法犯罪心理学特講A (被害者支援心理学)	殺人や強盗、性犯罪など対人犯罪では、必ず被害者が存在する。人は、犯罪の被害に遭遇すると、心身に様々な反応を示すだけではなく、生活や刑事手続等での困難にも直面する。その支援は専門家だけが行うものではなく、家族や友人が支えになることも多い。本授業では、被害者支援の歴史や諸制度、被害者への心理的ケアといった個別の内容のみならず、「犯罪被害」を受けるとどのようなことが生じるのか、被害者の心理はどのようになり、刑事手続では何が起り、それらに対してどのような対応をしていくのかを、様々な犯罪種別毎の具体的な事例や視聴覚教材から学んでいく。そして被害者心理に対する共感力や思考力を身に着けていく。そのうえで、専門家や家族、友人、同僚と言った様々な立場から、どのような被害者支援を行っていくことができるか、精神的な視点に加えて、刑事司法・経済・生活等を含めた包括的な視点から実践的に検討する。	
専門教育科目	心理学専修科目	司法犯罪心理学特講B (心理学と法)	本授業は、法が作動する場面、例えば裁判の過程およびその前後の手続き等について、人間の行動特徴を検討する分野である「法と心理学」の領域、および、犯罪、虐待、青少年の逸脱行為、児童福祉といった、法律と心理学が交差する様々な領域について学び、考えることを目的とする。心理学は人間一人一人の心理に関する学問であるが、対象となる人間は社会の中で生きており、社会の秩序は法律や制度によって保たれている。社会に出る、あるいは対人支援を行う上で、法の視点は重要である。授業では、捜査手続きや裁判にかかわる「犯罪に関する法律と心理学」や、児童買春や児童虐待など「児童の福祉に関する法律と心理学」などについて、様々な研究や理論、あるいは実際の事件などを通して学んでいく。授業を通して、法の枠組みの中でどのように心理学の知識を生かし、社会問題を考えていくか、社会と密接にかかわる実践的な思考力を育成する。	
専門教育科目	心理学専修科目	司法犯罪心理学特講C (加害と被害の臨床心理学)	本授業の目的は、我が国の司法、犯罪、非行、被害者支援といった領域において行われている心理介入について、その目的、介入の背景にある理論、姿勢、倫理を学ぶことである。現在、わが国では、加害者臨床や被害者の心理的ケアにおいて、エビデンスに基づいた介入が行われつつある。例えば、背景にトラウマの問題が潜んでいる問題行動を示す子どもに対しては、トラウマインフォームドケアやトラウマフォーカスト認知行動療法が広がりつつある。また、非行少年には、	

			グッドライフモデルなどが適用される場合もある。性犯罪加害者や依存症の者には、認知行動療法の集団プログラムの実施も行われている。被害者の心理的ケアでは、トラウマに焦点を当てた認知行動療法や心理療法が使用される。授業では、これら一つ一つを、なぜそうした介入が必要なのか、倫理上の問題にはどのようなことがあるかなどの背景を含めて伝えていく。授業を受けることで、対人支援を行っていく上での実践的な力がつくと同時に、社会で生きる多様な人への想像力と共感力を身に付けていく。	
専門教育科目	心理学専修科目	産業心理学特講A（キャリア心理学）	長寿化や経済構造の変化が進むこれからの時代を生きる人々には、自らのキャリアについて主体的に考え、あらゆる可能性の中から自らの歩む道筋を選択することが求められる。本授業では、キャリアにかかわる選択や計画、能力開発に役立つ理論や、キャリア形成が重要視される社会的背景について学ぶ。また、ワークやグループでの議論を通じて、自らのキャリア形成における課題や今後の可能性について考え、自立的、計画的にキャリア形成を行う態度を醸成することを目指す。到達目標は、以下の3点である。1)キャリアにかかわる代表的理論を2つ以上挙げ、それぞれの内容について説明できる。2)キャリア形成が重要視される社会的背景について自分の言葉で説明できる。3)自分自身のキャリアに関心を持ち、今後のキャリアをどのように捉えてどのように歩みたいかを考え、実践に移すための具体的計画を立てることができる。	
専門教育科目	心理学専修科目	産業心理学特講B（産業カウンセリング）	産業社会の中で産業カウンセリングの果たす役割への期待と意義は大きい。職場におけるメンタルヘルス問題（過労死、精神疾患、うつ病、ハラスメント、発達障害の2次障害など）の解決が求められている。本科目では、産業カウンセリングの歴史、役割、目的、基礎理論、基本技能、バーンアウト、ストレスチェック、EAP、職場復帰支援（リワーク）、コンサルテーション、多職種連携、組織における人の行動、人事労務管理、関係法規、倫理について講義と事例を交えて学ぶ。これらの学びを通して産業領域で支援の対象となる人たちの多様性を理解し、支援者としての共感力と問題解決の思考力を高めていく。	
専門教育科目	心理学演習実習科目	心理学体験実習A（ボランティア）	近年我が国は、国民一人ひとりが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくとともに、年齢や性別、ライフスタイルや障がいの有無などに関わらず、安心して暮らしていける「共生社会」の実現に取り組んでいる。人々の多様なあり方、生き方を相互に認め合いながら、誰もが個性を發揮できる社会の構築を目標としており、障がい者や高齢者の社会参加、ひいては国民全員参加型の社会づくりが重要な課題とされている。この授業では、校内における新宿区立福祉作業所のパン販売活動の支援、及び高齢者施設訪問などのボランティア体験を通して、障がい者や高齢者に対する理解を深め、適切に関わる実践力を高めることを目標とする。また、共生社会、共生キャンパス実現のために必要なことを考え、主体的に行動できるようになることを目指す。	
専門教育科目	心理学演習実習科目	心理学体験実習B（異文化体験）	現在、日本社会では滞日外国人数は過去20年で最も多く256万人を超えており、195か国・地域の人々が居住している。学校や地域社会では多様な文化的・言語的背景を持つ人々と日常的に接したりする機会はますます増えている。本授業では、多文化社会でマイノリティの人々が生きていく上で生じる障壁はどのようなものか検討し、共にコミュニティメンバーとして生きていくためには何が重要か、「多文化共生」の課題について心理学的に考えていく。実習では、国際交流機関等の施設訪問を行い、外国人研修生のための教育実践やグループワークなどの予防的支援活動や教育活動等の参観や支援を行う。また、外国人の支援者（カウンセラーや教職員、ボランティア等）や当事者へのインタビューを行い、当事者の抱える悩みはどのようなものか明らかにし、現状と課題について体験を通して共感的に理解することを目指す。	
専門教育科目	心理学演習実習科目	心理学体験実習C（メンタルサポートボランティア）	この体験実習は、新宿区立小学校でメンタルサポート・ボランティア（児童生徒の学校生活を心理面への配慮を行いながら支援するボランティア）として1年間活動するものである。小学校には、学習面、生活面、対人関係面、心理面などにおいてさまざまな支援ニーズを抱えた児童がいる。そのような児童たちに対し、メンタルサポート・ボランティアとして学校現場に入り、直接かかわりながら支援していくことを目的とする。まずは、小学校で活動する上での基本的な態度、ルールの理解、教員との連携することの意義・方法、児童とかかわる際の姿勢・スキル、報告書の書き方などについて実習を通して学ぶ。そして、学校や児童のニーズを把握すること、教員と連携し情報交換をすること、その児童のニーズに合った支援方法を考え実践していくことを通して、学校臨床で必要な知識とスキルの習得を目指す。	
		心理学入門演習	1年次には心理学概論や臨床心理学概論などの豊富な講義が用意されている。しかし、講義を聴くだけではみずから知識を獲得する力を養成するには不十分である。そこで、この科目ではグループ学習を行いながら心理学に関連した書籍を「理解し・要約し・発表し・討論す	

専門教育科目	心理学演習実習科目		る」ことで、学生一人ひとりが心理学的知識とグループ学習の方法を身につけることをねらいとしている。具体的には、① 心理学に関連する書籍の内容を正しく理解し、著者の論点を正しく抽出し、適切に要約できる、② 書籍を読んで理解した内容と書籍の著者の論点を正しくかつわかりやすく他者に伝え、討論ができる、③ グループ学習を理解し、実践できることが目標となる。そして、これらの学びを通してグループメンバーの多様性を理解し、共感力と傾聴力と問題解決の思考力、学習を計画する力、チームワークに必要な柔軟性、規範性を高めていく。
専門教育科目	心理学演習実習科目	心理学基礎演習	温故知新ということばがあるように、学問を行っていく上で、昔の事柄をもう一度調べたり考えたりしながら、新たな道理や知識を見出し、自分のものとするのは欠かせない。心理学においても同様である。現代の心理学を学ぶ上で、今に至るまでの心理学の歴史の貢献のみならず、反省や問題を踏まえ、共感することが重要である。本演習では、心理学史の教科書を読み、各自が考え、現代社会とどのようにつながっているかを意識しながら、まとめて発表、討議するという一連の流れの中で心理学への理解を深めていくことを目的とする。
専門教育科目	心理学演習実習科目	心理学調査法	本授業は、1年次に心理学統計法、2年次に心理学実験を履修した後、心理学の研究手法についてさらに学びを深めることを目的とする。心理学は、社会や人間について調べ、考えることで発展してきた学問である。そのため、心理学を学ぶ上で、人を対象として適切な調査を実施することは重要である。同時に、人を対象とするがために、調査を実施する上で研究協力者を傷つけないこと、研究倫理を順守することもまた、非常に重要である。本授業では、小グループに分かれて心理学における質問紙調査研究を実践する。その中で、研究者としての態度、調査倫理、調査用紙の作成方法・調査の実施方法・結果集計方法・報告書の作成方法について学ぶ。また、調査実施後、集計のためのSPSSの実習を行い、SPSSを実践的に活用できるようになることを目指す。調査には、綿密に先行研究を調べ、自ら考え、実施し、分析する能力が不可欠であり、実際に調査を施行することで、実践力を身につけていく。
専門教育科目	心理学的支援実習	心理学的アセスメント	本科目では心理学的アセスメントの目的及び倫理、心理学的アセスメントの観点及び展開、心理学的アセスメントの方法、適切な検査の記録及び報告について概説する。また、学習目標として質問紙法、面接法、認知機能検査、発達検査、投影法等の心理検査の実践能力と検査選択のための能力を養い、検査の実施だけでなく、適切な査定に基づく検査の選択能力、フィードバック能力といった総合的な査定能力を身につけることを目指す。具体的には、ロールシャッハテストおよびその他の投影法による査定、質問紙検査による査定、構造化面接による査定、自殺リスクの査定、神経心理学的検査、自閉症および自閉スペクトラム症の査定 (Vineland-II, ADOS-2, ADI-R, PARS-TR) などを取り上げ、心理学的アセスメントの背景理論をもとにした検査の実施と結果のまとめ、およびその解釈とフィードバックのための能力を身につける。
専門教育科目	心理学的支援実習	心理学的支援法	本科目は、人が人を心理学的支援するということがどのようなことかについて検討することを目的とする。具体的には、力動的療法、認知行動療法、人間心理学的療法をはじめとした代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問(アウトリーチ)による支援や地域支援の意義、心理学的支援に携わる関係者への支援、コンサルテーション、ストレスマネジメントなどの心の健康教育に関する講義を行うとともに、良好な人間関係を築くための基本的なカウンセリング技法や傾聴訓練などコミュニケーションを促進するための方法を理解するとともに、実際に演習を通して学ぶ。また、クライアントのプライバシーへの配慮としての守秘義務やインフォームドコンセントの重要性についても学ぶ。
専門教育科目	心理学的支援実習	心理演習A	心理演習Bと連続して開講し、心理学的援助を提供する上で必要となる、基礎的な技能と姿勢を身につけることを目標に授業を実施する。心理臨床において遭遇する、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を中心に授業を展開し、現場で役立つ知識と技術の習得を目指す。具体的には、公認心理師としての職業倫理及び法的義務、多職種連携及び地域連携など、専門家として備えるべき基本的知識について、体験的に学ぶ機会を設ける。また、臨床活動の中核とも言うべきコミュニケーションの技能や、心理検査、心理面接、地域支援等の技術を、演習を通じて磨いていく。さらに、心理に関する支援を要する者などの理解とニーズの把握及び支援計画の作成や、チームアプローチの実践についても実践的に学ぶ機会を提供する。演習を通じて、受講者が心理臨床の現場で行われている援助プロセスに対する理解を深め、働くイメージを持てるようになることが目標である。
		心理演習B	心理学的援助を提供する上で必要となる、基礎的な技能と姿勢を身につけることを目標に授業を実施する。心理臨床において遭遇する、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を中心に授業を展開し、現場で役立つ知識と技術の習得を目指す。具体的

専門教育科目	心理学的支援実習	<p>には、公認心理師としての職業倫理及び法的義務、多職種連携及び地域連携など、専門家として備えるべき基本的知識について、体験的に学ぶ機会を設ける。また、臨床活動の中核とも言うべきコミュニケーションの技能や、心理検査、心理面接、地域支援等の技術を、演習を通じて磨いていく。さらに、心理に関する支援を要する者などの理解とニーズの把握及び支援計画の作成や、チームアプローチの実際についても実践的に学ぶ機会を提供する。演習を通じて、受講者が心理臨床の現場で行われている援助プロセスに対する理解を深め、働くイメージを持てるようになることが目標である。</p>	
専門教育科目	心理学的支援実習	<p>心理実習</p> <p>心理に関する支援を要する者等に対する実践力の高い人材を養成するために、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野において当該施設の実習指導者もしくは実習担当教員の指導を受けながら実習を行う。実習では、① 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、② 多職種連携及び地域連携、③ 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について学びを深める。また、実習で知り得た個人の秘密の保持について、十分配慮できるようになる。そして、実習の事前指導と事後指導を受け実習への理解を深め、それらの成果を実習報告会で発表する。実習生用の「心理実習ガイド」及び「実習記録ノート」等を活用し、実習生ごとに実習内容についての達成度を評価（実習施設の実習指導者、実習生本人の自己評価）し、全体指導と必要な個別指導を受けることで実践力を高める。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>前半15回 （12 宇野耕司・14 浅野憲一／1回）（共同） 全30回のオリエンテーションとして、心理実習の意義と目的、方法、実習スケジュール・管理について説明する。</p> <p>（9 杉本希映・7 高橋稔／1回） 実習は社会的場面であることを自覚し、実習生として求められる態度について理解する。そして、公認心理師となることへの自覚を促すために実習施設で求められる倫理的配慮や態度について理解を深める。</p> <p>（7 高橋稔・1 小池（渋谷）真規子／1回） 心理実習に取り組む際の基本的態度として個人情報保護と安全対策について理解する。</p> <p>（10 財津亘・13 齋藤（水野）梓／1回） 司法・犯罪分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。</p> <p>（10 財津恒・13 齋藤（水野）梓／1回） グループに分かれて、司法・犯罪分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしてい</p> <p>（12 宇野耕司・2 小野寺敦子／1回） 福祉分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。</p> <p>（12 宇野耕司・2 小野寺敦子／1回） グループに分かれて、福祉分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしてい</p> <p>（28 田中勝博・6 丹明彦／1回） 福祉分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。</p> <p>（28 田中勝博・6 丹明彦／1回） グループに分かれて、福祉分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしてい</p> <p>（14 浅野憲一・8 河野理恵／1回） 産業・労働分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関す</p>	オムニバス方式・共同（一部）

る知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。

(14 浅野憲一・8 河野理恵/1回)

グループに分かれて、産業・労働分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしていく。個別実習計画を完成させる。

(4 庄司正実・13 齋藤(水野)梓・9 杉本希映/1回)

産業・労働分野および教育分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。

(4 庄司正実・13 齋藤(水野)梓・9 杉本希映/1回)

産業・労働分野および教育分野の実習施設ごとのグループに分かれて、それぞれの実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしていく。個別実習計画を完成させる。

(10 財津亘・13 齋藤(水野)梓/1回)

グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと(総括)である。

(12 宇野耕司・2 小野寺敦子/1回)

グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと(総括)である。

後半15回

(12 宇野耕司・14 浅野憲一/1回) (共同)

心理実習後半15回のオリエンテーションとして、心理実習の意義と目的、方法、実習スケジュール・管理について説明する。

(1 小池(渋谷)真規子・7 高橋稔/1回)

グループに分かれて、春学期に行った実習の自己評価と共有を行う。

(11 笹川(血脇)智子・1 小池(渋谷)真規子/1回)

保健医療分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。

(14 浅野憲一・7 高橋稔・12 宇野耕司/1回)

保健医療分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。

(11 笹川(血脇)智子・1 小池(渋谷)真規子・14 浅野憲一・7 高橋稔・12 宇野耕司/1回)

グループに分かれて、保健医療分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしていく。個別実習計画を完成させる。

(7 高橋稔・6 丹明彦/1回)

教育分野の実習施設の概要を紹介し、学生の実習施設に関する知識の基盤を形成する。施設の概要、利用者、支援内容、関係法規などを理解する。

(7 高橋稔・6 丹明彦/1回)

グループに分かれて、教育分野の実習施設における実習目的を明確化し、その施設で学ぶべきことが何かを明らかにする。実習施設の概要を詳細に調べ、公認心理師の観点から観察すべきことが何か、質問すべきことは何か、実習生に求められる実習態度などについて明確にしていく。個別実習計画を完成させる。

			<p>(28 田中勝博・6 丹明彦／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(8 河野理恵・14 浅野憲一／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(4 庄司正実・13 齋藤（水野）梓・9 杉本希映／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(11 笹川（血脇）智子・1 小池（渋谷）真規子・14 浅野憲一・7 高橋稔・12 宇野耕司／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(7 高橋稔・6 丹明彦／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(1 小池（渋谷）真規子・28 田中勝博／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(9 杉本希映・7 高橋稔／1回) グループに分かれて、心理実習報告会で報告する内容を検討し、報告書の作成を行う。報告内容は実習施設の概要、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、そして学生が実習で学んだこと（総括）である。</p> <p>(12 宇野耕司・14 浅野憲一／1回) これまでの心理実習の取り組みについて全般的な検討と評価を行う。心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について心理実習体験に基づいて理解を深める。</p>	
専門教育科目	臨地研修	臨地研修（短期）	<p>学生が通常の授業から離れて、自主的に研修・調査を行い、主体的に心理学に関連した学びの機会を持つために、国内外の現地における研究課題の解明・検証などの心理学的評価実践、インターンシップやボランティア活動などの実践活動を行う。研究・調査・実践活動の目的や方法を明確にしていく計画力、活動内容を記録・整理していくまとめる力、目的に対する結果について心理学的な見地から考察を加える思考力、レポートにまとめていく発信力といったことを身につけていく。また、研修機関等への事前の申し込み・打ち合わせ、連絡・調整の実地体験では企画力や調整力、研修機関等での人的交流の機会では共感力とコミュニケーション力、研修機関等で課されている規範や倫理的配慮の実践では、規範性と倫理観を身につけていく。</p>	共同
専門教育科目	臨地研修	臨地研修（長期）	<p>学生が通常の授業から離れて、自主的に研修・調査を行い、主体的に心理学に関連した学びの機会を持つために、国内外の現地における研究課題の解明・検証などの心理学的評価実践、インターンシップやボランティア活動などの実践活動を行う。研究・調査・実践活動の目的や方法を明確にしていく計画力、活動内容を記録・整理していくまとめる力、目的に対する結果について心理学的な見地から考察を加える思考力、レポートにまとめていく発信力といったことを身につけていく。また、研修機関等への事前の申し込み・打ち合わせ、連絡・調整の実地体験では企画力や調整力、研修機関等での人的交流の機会では共感力とコミュニケーション力、研修機関等で課されている規範や倫理的配慮の実践では、規範性と倫理観を身につけていく。</p>	共同

専門教育科目	セミナー・卒業研究	心理学専門セミナーA	本演習は2年次までの専門科目で学んできた専門知識を基盤に、より高度で専門性の高い心理学的知識、心理学的研究の方法、心理学を活かした支援、心理学を社会に活かす方法などを学ぶ。これまでに身につけてきた情報を集める力、読む力、まとめる力（特に論文にする力）、発表する力をより高度なレベルで発揮し、そして、多様な人々に対する共感力と心理学的考察を支える思考力を総合的に活用しながら、これらの力をさらに開発していく。方法としては、関連専門書の読解、意見交換、心理学的調査・実験、職場見学（施設・企業）、フィールドワーク、プロジェクト学習、成果発表などが単独あるいは組み合わせで実施される。	
専門教育科目	セミナー・卒業研究	心理学専門セミナーB	本演習は心理学専門セミナーAで学んできた専門知識を基盤に、より高度で専門性の高い心理学的知識、心理学的研究の方法、心理学を活かした支援、心理学を社会に活かす方法などを学ぶ。これまでに身につけてきた情報を集める力、読む力、まとめる力（特に論文にする力）、発表する力をより高度なレベルで発揮し、そして、多様な人々に対する共感力と心理学的考察を支える思考力を総合的に活用しながら、これらの力をさらに開発していく。方法としては、心理学専門セミナーAからの連続性と心理学特別セミナーAへの連続性を意識しながら、関連専門書の読解、意見交換、心理学的調査・実験、職場見学（施設・企業）、フィールドワーク、プロジェクト学習、成果発表などが単独あるいは組み合わせで実施される。	
専門教育科目	セミナー・卒業研究	心理学特別セミナーA	本演習は心理学専門セミナーで身につけてきた様々な力をさらに開発・発展していく。最終的な成果物として、卒業論文もしくはセミナー論文にまとめていくために必要な知識やスキルを獲得しつつ、心理学研究に取り組む。卒業論文にまとめる者は、心理学に関連するテーマを見つけて、学術的な観点から問題を整理し、研究目的を明確にする。そして、研究計画を立てる。進捗の早い学生は実験・調査・観察などの心理学的方法を用い、得られたデータを解析し、結果にまとめ、結果に対する考察を行い、論文としてまとめる。セミナー論文にまとめる者は、上記の卒業研究に準じた研究方法で文献調査や心理学的調査、あるいは心理学的実践活動等を行い、それらの結果を論文としてまとめていく。本演習では、情報を集める力、読む力、まとめる力（特に論文にする力）、発表する力をより高度なレベルで獲得し、そして、多様な人々に対する広い共感力と心理学的考察を支える深い深い思考力を獲得する。	
専門教育科目	セミナー・卒業研究	心理学特別セミナーB	本演習は心理学特別セミナーAで身につけてきた様々な力をさらに開発・発展していく。最終的な成果物として、卒業論文もしくはセミナー論文にまとめる。卒業論文にまとめる者は、心理学特別セミナーAの継続として、特に、実験・調査・観察などの心理学的方法を用い、得られたデータを解析し、結果にまとめ、結果に対する考察を行い、論文としてまとめる。セミナー論文にまとめる者は、上記の卒業研究に準じた研究方法で文献調査や心理学的調査、あるいは心理学的実践活動等を行い、それらの結果を論文としてまとめていく。本演習は、心理学特別セミナーAと連続するものであり、さらに情報を集める力、読む力、まとめる力（特に論文にする力）、発表する力をより高度なレベルで獲得し、そして、多様な人々に対する広い共感力と心理学的考察を支える深い深い思考力を獲得する。	
専門教育科目	セミナー・卒業研究	卒業研究	心理学に関連するテーマを見つけて、学術的な観点から問題を整理し、研究目的を明確にする。そして、研究計画を立て、実験・調査・観察などの心理学的方法を用い、得られたデータを解析し、結果にまとめ、結果に対する考察を行い、論文としてまとめる。論文にまとめるためには、これまでに身につけてきた情報を集める力、読む力、まとめる力、発表する力をより幅広く、かつ深く修得し、修得したものを高度なレベルで発揮し、そして、多様な人々に対する広い共感力と心理学的考察を支える深い思考力を総合的に活用する必要がある。方法としては、グループ指導や学生一人ひとりの到達度に合わせた個別指導を適宜用いながら行う。卒業論文にまとめたものを、卒業発表会で発表する機会を与え、卒業論文と合わせて学士相当の研究実践活動能力について総括的な評価を行う。	

学校法人目白学園 設置等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容定 員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容定 員	変更の事由	
目白大学 <small>全て3年次</small>				目白大学 <small>全て3年次</small>					
				<small>学部の設置(届出)</small>					
				<small>令和2年4月学生募集停止</small>					
人間学部				心理学部					
心理カウンセリング学科	120	10	500	心理カウンセリング学科	125	-	500		
人間福祉学科	100	10	420	人間学部	0	0	0		
子ども学科	140	10	580	人間福祉学科	100	10	420		
児童教育学科	50	-	200	子ども学科	140	10	580		
社会学部				児童教育学科	50	-	200		
社会情報学科	120	5	490	社会学部					
地域社会学科	80	5	330	社会情報学科	120	5	490		
メディア学部				地域社会学科	80	5	330		
メディア学科	140	-	560	メディア学部					
経営学部				メディア学科	140	-	560		
経営学科	130	5	530	経営学部					
外国語学部				経営学科	130	5	530		
英米語学科	80	5	330	外国語学部					
中国語学科	40	-	160	英米語学科	80	5	330		
韓国語学科	60	-	240	中国語学科	40	-	160		
日本語・日本語教育学科	40	-	160	韓国語学科	60	-	240		
保健医療学部				日本語・日本語教育学科	40	-	160		
理学療法学科	85	-	340	保健医療学部					
作業療法学科	60	-	240	理学療法学科	85	-	340		
言語聴覚学科	40	-	160	作業療法学科	60	-	240		
看護学部				言語聴覚学科	40	-	160		
看護学科	105	-	420	看護学部					
				看護学科	105	-	420		
計	1390	50	5660	計	1395	40	5660		
目白大学大学院 <small>3年次</small>				目白大学大学院 <small>3年次</small>					
国際交流研究科				国際交流研究科					
国際交流専攻(M)	20	-	40	国際交流専攻(M)	20	-	40		
心理学研究科				心理学研究科					
現代心理学専攻(M)	20	-	40	現代心理学専攻(M)	20	-	40		
臨床心理学専攻(M)	30	-	60	臨床心理学専攻(M)	30	-	60		
心理学専攻(D)	3	-	9	心理学専攻(D)	3	-	9		
経営学研究科				経営学研究科					
経営学専攻(M)	20	-	40	経営学専攻(M)	20	-	40		
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9		
生涯福祉研究科				生涯福祉研究科					
生涯福祉専攻(M)	20	-	40	生涯福祉専攻(M)	20	-	40		
言語文化研究科				言語文化研究科					
英語・英語教育専攻(M)	10	-	20	英語・英語教育専攻(M)	10	-	20		
日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20	日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20		
中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20	中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20		
看護学研究科				看護学研究科					
看護学専攻(M)	15	-	30	看護学専攻(M)	15	-	30		
リハビリテーション学研究科				リハビリテーション学研究科					
リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30	リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30		
計	176		358	計	176		358		
目白大学短期大学部				目白大学短期大学部					
製菓学科	55	-	110	製菓学科	55	-	110		
ビジネス社会学科	75	-	150	ビジネス社会学科	75	-	150		
歯科衛生学科	60	-	180	歯科衛生学科	60	-	180		
計	190		440	計	190		440		